

Ma'ema'e

マエマエ ハワイスタイルツールキット



HAWAII TOURISM™
AUTHORITY

Papa Kuhikuhi

目次

Ka Ho'olauna

序文 1

Ka Ho'ohiki

HTAの取り組み 2

Ka Pae'āina Hawai'i

ハワイの島々 9

Nā Waiwai Kūlohelohe

自然資源 20

Ka 'Ōlelo Hawai'i

ハワイ語 26

Ka Ho'oilina Ali'i

ハワイ王国の遺産 30

Nā Ho'olaule'a Hawai'i

ハワイの祭典 34

Nā Hana Kuluma

風習と習慣 36

Nā Mea E Maka'ala 'Ia

気をつけたいこと 40

Nā Inoa 'Āina

正式な地名 48

Nā Kumuwaiwai Kōkua

連絡先と参考資料 53

ネイティブハワイアン・ホスピタリティ協会が制作した
マエマエ・ツールキットは、改善を重ねながら
正確でタイムリーな情報を提供するために継続的に進化しています。
情報はHTAのパートナーおよび地域社会や観光産業の
ハワイ文化専門家の指導のもと、
具体的な目的や対象者に合わせて編集しています。



ハワイ文化

ハワイの伝統文化と地域社会をサポート

Ho'oulu ホオウル — 訪問者も住民も本質的な体験を通して、
ハワイの伝統文化と地域社会の独自性と保全性を高めていきます。

ハワイ観光戦略 2020-2025

ハワイ・ツーリズム・オーソリティは、世界各地でハワイの島々を代表し、観光を総合的に管理する責任を担う州の機関です。地域社会や観光産業と連携し、**マラマ・クウ・ホメ** (Mālama Ku'u Home 愛する故郷を守る) のために活動しています。今後の活動について、「ハワイ観光戦略プラン2020-2025」と、それに続くコミュニティ主導で制作された「デスティネーション・マネジメント・アクション・プラン」に沿い、ハワイ文化の健全性、保護、保全を最優先します。

ハワイの本質を伝えることは、ハワイの島々を故郷と呼ぶカマアイナ (kama'āina ハワイの住民) や、ハワイ文化の健全性、保護、保全していく上でも非常に重要です。従って、観光産業が最大限の配慮をすることが重要です。マエマエ・ツールキットはハワイの島々を正確に描写するために不可欠な情報を網羅した資料です。地理や文化に関する情報から伝統や習慣の説明まで、ハワイに関する基礎知識を得るためにこれを活用してください。

ツールキットの名称「マエマエ (Ma'ema'e)」は、オレロ・ハワイ (ōlelo Hawai'i ハワイ語) で清らかさや純粋さを意味します。ハワイの説明や描写が「清らかで魅力的、そして純粋」であるべきという考えに基づくプロジェクトだからこそ、名称は大きな意味を持ちます。ハワイを紹介するとき、誤解を招く表現があってはなりません。ハワイの土地や文化、そして人々がマエマエであるように表現されることを可能にするのです。マハロ。

ジョン・デ・フリーズ (John De Fries)

ハワイ・ツーリズム・オーソリティ 局長 兼 最高責任者
(President & CEO, Hawai'i Tourism Authority)

カラニ・カアナアナ (Kalani Ka'anā'anā)

ハワイ・ツーリズム・オーソリティ ブランド責任者
(Chief Brand Officer, Hawai'i Tourism Authority)

ハワイの保全と振興

訪 問者の体験は、訪問者、地域社会、土地といった3つの要素から生まれます。ハワイの観光産業の多くは、3つの要素で「訪問者」を最重要視するビジネスモデルを踏襲し、「土地」と「地域社会」は訪問者に合わせて絶えず変化することを強いられてきました。ネイティブハワイアンのはオキパ (ho‘okipa ハワイ式ホスピタリティ) では、まず土地を大切に、地域社会を尊重し、その上で訪問者のニーズを満たします。

今日のハワイは、文化、民族、伝統、アクティビティが融合し、世界でも他に類のない人間の調和と包括性をの一端に訪問者に提供しています。世界各地から訪れる人々がハワイを故郷のように想い、ハワイを世界有数の観光地に発展させてきましたが、ハワイを他のどことも違う独特の場所に行っているのは、ネイティブハワイアンとその伝統文化です。観光が地域社会にもたらす社会的、経済的恩恵を促進するために

は、ネイティブハワイアンの伝統文化を尊重することが極めて重要です。

長年、多くの人々が私たちの故郷に魅了されてきました。しかし、ハワイとネイティブハワイアンの文化は、ハワイのプロモーションやマーケティングにおいて、時に誤って表現され、不適切な商業化が行われてきました。誤った情報や誤表記、発音の間違いや不適切なイメージなどはほんの一例です。これらの誤りは一見無害で、意図的でないように見えても、誤りの蓄積はハワイらしさを損ない、観光地としての魅力はもちろん、豊かなハワイの伝統文化を傷つけるものです。本ツールキットは、訪問者、企業、住民がハワイおよびハワイの伝統文化について正しく説明し、表現する方法を理解するのに役立つものです。

1998年の創設以来、ハワイ・ツーリズム・オーソリティ（HTA）は時代に合わせた観光戦略プランに基づいて活動してきました。創設20年を超えた今のHTAと「ハワイ観光戦略プラン2020-2025」は、訪問者による無謀な行動の増加、観光が与える影響に対する懸念の高まりに対し、ハワイの観光産業が住民と訪問者双方に長期的な恩恵をもたらすためにどのような管理をするかという問い掛けをし、新しいレベルの観光のあり方を示しています。

HTAは自然資源、伝統文化、地域社会、そしてブランディングという相互に影響し合う4つの柱を軸に活動しています。これらの柱は、ハワイに暮らす人々の生活の質および訪問者がハワイで得る体験の質に、ハワイの伝統文化、環境、そして地域社会が重要な役割を果たしていることを認識し、強調しています。

ハワイにおける最も責任ある観光形態は、観光の経済性と地域社会や自然資源の健全性のバランスを追求するリジェネラティブツーリズム（再生型観光）です。
— マラマ クウ ホメ



経済的目標、文化的価値観、自然資源の保護、地域社会の要望、観光産業の需要を踏まえ、持続的な方法でハワイの観光産業を戦略的に管理していくHTAの使命は変わりません。本ツールキットはマラマ・クウ・ホメ（Mālama Ku‘u Home 愛する故郷を守る）の理想のもとに最新情報を反映させるために毎年更新します。

マラマ・クウ・ホメは我々の志であり、行動への呼びかけです。自分が生まれた土地、自分が暮らし、故郷と呼ぶ土地に対して、人が本来持っている責任感に基づくものです。

ハワイの 観光産業の再構築

ハワイを訪れる人が年間1,000万人に急増し、カマアイナ（kama‘āina ハワイの住民）は疎外感を感じ始めました。新型コロナウイルスによるパンデミックで観光業は停滞し、カマアイナは今、観光産業に調和を求めています。

ハワイの土地や環境、人々、文化の持続可能性と回復力に対する懸念がある一方で、ハワイアンコミュニティは歴史的に外国の利益によって居場所を奪われ、その文化が商業化されてきたため、文化的配慮が求められています。さらに、ハワイの独特な島の環境は気候変動と環境酷使による影響を受けています。ハワイの住民の多くは、今日の観光産業が文化的な意識を持ち、環境的に持続可能であることを望んでいます。

これらの理由から、HTAは優先順位を再定義しました。世界に向けてハワイを紹介する際に、本質性と持続可能性を妥協することはできません。2020年、ハワイ州はハワイを世界に紹介するための指針として、「再生型観光」という考え方を導入しました。

再生型観光を理念に 観光産業を改善

再生型観光の概念は、持続可能で回復力のある観光産業の実現を意味します。ハワイの島々を酷使し、衰退させる観光は持続可能ではありません。再生と活性化こそが、土地、人々、そしてアロハスピリットの唯一の道なのです。これらの原則によって、ハワイを魅力的な場所にする文化的、環境的、社会的特徴を回復させることができます。この新たな理想は、訪問者が訪れる土地に対するより高い意識と敬意を持ち、訪問者と住民の双方に貢献し有益な方法でハワイを体験する機会を提供す



ることに焦点を当てています。そこには、エコツーリズム、ボランティアツーリズム、アグリツーリズム、文化体験、循環型経済活動の促進を目的とした訪問者の体験プログラムの強化が含まれます。例えば住民と共に行う農作業体験、環境修復、本物の文化教育、環境に配慮した旅行形態、メイドインハワイ商品を購入することなどが挙げられます。

危機からの脱却と 新たな責務

この新たな優先順位は、真の意味でマエマエ (ma'ema'e 清らかで純粋) な方法でハワイを表現するのに役立ちます。パンデミックがもたらした課題を克服する上で、ハワイを保存し、住民と文化を守ることは私たちの優先事項です。ハワイは小さな島社会で医療設備も限られていますが、アロハに溢れています。他者を受け入れる点でも、隔離された場所である点でも世界でも他に類を見ないハワイでは、ソーシャルディスタンスや経済的困難にも関わらず、地域社会は互いに支え合うために団結しました。観光が途絶えたことで、私たちは優先順位を見直し、地域社会を再構築し、自然環境を癒すために必要な休息を与えることができました。ハワイの観光産業を再構築し、抜本的改革に取り組むとき、HTAの「クレアナ (kuleana 責任)」とは、ハワイそのものを守り、保存することです。

HTAはハワイの観光産業を管理するだけでなく、ハワイの文化と土地、カマアイナ (地元住民) のサポート役でなければなりません。私たちの活動はすべてこの責任に結びついています。



I KA ‘ŌLELO NŌ KE OLA, I KA ‘ŌLELO NŌ KA MAKE.

言葉に命あり、
言葉に死あり

ハワイ・ツーリズム・オーソリティ (HTA) およびそのパートナーは、ハワイというデスティネーションが、正しく表現されるよう、積極的に取り組んでいます。このセクションでは、ハワイやハワイ文化に対してよくある誤った表現を取り上げ、フラ、文化史跡、象徴、レイ、植物や野生動物などに関するガイドラインを提供します。

言葉やメッセージ、フレーズへの配慮もさることながら、HTA は一枚の写真が千の言葉に匹敵する力を持つ（百聞は一見にしかず）、つまり、マーケティングやストーリーで描かれるイメージは、あっという間にハワイに対する世界の認識となることも理解しています。ハワイを正確に描写していないイメージがハワイの典型として流布しています。一般的に、ハワイ文化特有の価値観や習慣、シンボル、儀式の重要性を理解せず、自分の文化体験を通して培われた他文化への先入観や固定観念、俗説をハワイに当てはめると、こうした事態に陥ります。

ハワイを表現する際は、上記のオレロ・ノエアウ（‘ōlelo no‘eau ハワイ語の格言）をさらに解釈して、言葉は癒すことも破壊することもできると理解しています。

ハワイ観光戦略プラン 2020-2025

ハワイの観光は今、優先順位の見直しが必要な時期にあります。訪問者数を増やすことを重視してきた結果、自然環境と人々、そして訪問者が私たちの島を訪れる理由そのものに打撃を与えているのです。

そのため、デスティネーション・マネジメントはHTAの重要課題となり、「ハワイ観光戦略プラン 2020-2025」の中核を成しています。過去の観光戦略プランでも地域社会が受ける恩恵やハワイの文化、人材育成など、観光地特有の問題は取り上げられてきました。今回の観光戦略プランではこうした課題がさらに重視され、対策のための手段が付け足されています。同時にHTAは、「ハワイのブランドマネジメント、主にマーケティングに永続的かつ強力な焦点を当てる」ことが法律で認められています。しかし、訪問客を惹きつける資源そのものである土地や文化、地域社会を軽視したままでは、マーケティングの効果は限定的です。それらに再投資することで、デスティネーションを強化し、景気後退期にも耐えられるようにする必要があります。

「ハワイ観光戦略プラン 2020-2025」は2025年までのハワイの観光産業を支えていく上で、HTAのビジョンや使命の指針となるツールです。

「ハワイ観光戦略プラン 2020-2025」の詳細は
下記サイトをご参照ください。

[hawaiitourismauthority.org/who-we-are/
our-strategic-plan](http://hawaiitourismauthority.org/who-we-are/our-strategic-plan)

デスティネーション・マネジメント・アクション・プラン

HTAは各郡および各島の観光局と提携し、カウアイ島、マウイ・ヌイ（マウイ島、モロカイ島、ラナイ島）、オアフ島、ハワイ島それぞれの行政区のためのデスティネーション・マネジメント・アクション・プラン（DMAP）を作成しました。

HTAのハワイ観光戦略プラン2020-2025で定義されているように、デスティネーション・マネジメントには意識の高い訪問者を誘致し、啓発すること、混雑しすぎる観光名所や過負荷のインフラなど観光業に関する問題の解決策を提唱すること、さらに関係機関と協力してハワイの住民と訪問者のいずれもが評価する自然・文化的資産を向上させることなどが含まれます。

DMAPの目的は、3年間にわたり観光の方向性を再構築、再定義、再設定し、ハワイの観光産業、地域社会、他の諸組織や政府機関を巻き込み、積極的な問題解決の管理が必要な分野を特定することなどが挙げられます。

DMAPの詳細は下記サイトをご参照ください。

hawaiitourismauthority.org/what-we-do/destination-management/



観光のホットスポット

ハワイにはHTAが宣伝、撮影、訪問を奨励しない、ソーシャルメディアでタグ付けしない方がよい場所があります。このような場所は「ホットスポット」と呼ばれ、その人気から訪問者の過密、渋滞、資源の劣化、安全上の危険、住民と訪問者双方のネガティブな体験につながる可能性がある場所です。HTAは執行機関ではありませんが、ホットスポットとなる場所や地域に対処する解決法を見出すために、州や郡の機関、地域社会や民間企業に働きかけることができます。

各島のDMAPには、地域社会からの情報や、意識調査、協議、各郡や各島の観光局や運営委員会からの意見をもとに検討されたホットスポットのリストが公開されています。各島のDMAPは最も懸念されている地域や場所を特定していますが、リストになくともホットスポットと考えられる地域や場所があります。HTAは各機関と共に必要に応じてこれらを監視し、問題の軽減に努めます。

戦略的方針と 説明責任

HTAは、研究や他の運営機関によって支えられた4つの相互作用する「柱」に基づいて再編成されました。これらの柱は、ハワイの自然・文化資源を尊重し、ハワイの伝統文化や地域社会を支え、観光と地域社会が互いに豊かになり、観光の貢献度を高める総合的なデスティネーション・マネジメントを支えることを目標にしています。

自然資源

He ali‘i ka ‘āina, he kauwā ke kanaka.

主人は大地、仕えるのは人

-‘ŌLELO NO‘EAU (ハワイ語の格言) メアリー・カヴェナ・プクイ、531番

ハワイの伝統文化では、我々が大地を大切にすれば、大地は我々を守ってくれると考えられています。

大地とそこに暮らす人との相互関係も象徴的です。人間が時間と資源を費やして大地を大切にすれば、そこで暮らす住民も訪問者も繁栄するのです。

ハワイの美しさは自然資源の健全性に左右されます。繊細な生態系を維持するためにはマウカ (ma uka 山側) からマカイ (ma kai 海側) に至るすべてが極めて重要です。

何世代にもわたって享受できるようにハワイの美しい自然を保存していくため、ハワイの住民も訪問者も同じように自然資源を尊重し保護するよう、意識的な努力を行うことが大切です。

「HTAは、全ハワイ住民の生活の質の向上と訪問者の体験の充実を図るため、ハワイの自然資源と文化的名所の魅力を高め、支援するプログラムに資源を投入します。」

〈ハワイ観光戦略プラン2020-2025〉自然資源の柱



ハワイの文化

Ho‘okahi nōlā o ka malihini.

たった一日だけの客

-‘ŌLELO NO‘EAU (ハワイの格言) メアリー・カヴェナ・プクイ、1078番

アロハの意味は、相互的な性質があります。ハワイでは、すべてのゲストがオハナ (‘ohana 家族) として扱われ、家族の一員として互いにアロハの心を示し合います。アロハという言葉は正確に翻訳することはできませんが、愛情、思いやり、慈悲、同情、優しさ、礼儀、寛大など、多くの意味を含みます。したがって、このアロハの精神に基づき、私たちは同じクレアナ (kuleana 恩恵と責任) を受け入れなければなりません。ハワイを訪れる人もオハナの一員として貢献してくれることに期待します。ハワイのすべてを、そしてハワイを特別な場所としている伝統文化を守るために、訪問者も私たちと同じクレアナを持つ一員となってください。スチュワードシップは、すべての人のクレアナです。

「HTAは、訪問者と住民双方に本質的な体験を通して、ハワイの伝統文化と地域社会の独自性と一貫性をホオウル (ho‘oulu 成長) させます。」

〈ハワイ観光戦略プラン2020-2025〉ハワイ文化の柱



地域社会

‘A‘ohe hana nui ke alu ‘ia.

みんなでやれば、どんな大きな仕事でもできる。

– ŌLELO NO‘EAU (ハワイ語の格言) メアリー・カヴェナ・ブクイ、142番

これは、ハワイと住民のニーズを優先しなければならないという意味です。地域社会のためになることは、観光のためにも良いことです。訪問者には、来たときよりも良い状態にして去ることでハワイに貢献してもらいたいと考えています。地域社会の奉仕活動や地域活動に参加し、文化的な活動に取り組むように奨励し、それにより住民への理解を深め、私たちのアイナ (āina 土地) とカイ (kai 海)、そして貴重なワイ (wai 淡水) に敬意を持つよう奨励しています。これらの行動は長期的にカマアイナ (kama‘āina 住民) に恩恵をもたらし、訪問者にとっても、より意義深い体験を提供します。訪問者はこれらの体験を心に刻み、アロハの心を国内外で共有するでしょう。

「HTAは、地域社会から評価され、デスティネーションのブランドやイメージに沿ったプログラムを支援し、これらのプログラムやイベントを住民と訪問者の両方に情報提供し、住民と訪問者の関係を強化、回復力のある観光労働力と地域社会を構築するためのパートナーシップを形成することによって、住民と地域社会が観光から恩恵をうけられるように努めます。」

〈HTA 戦略プラン2020-2025〉地域社会の柱

ブランド・マーケティング

HTAのクレアナ (kuleana) は、訪問者に
ニヒ・カ・ヘレ (nihi ka hele) するように伝えること。

軽やかに歩き 災いは残さないように

〈ENIHI KA HELE〉1887年 デビッド・カラカウア国王作

この言葉は観光管理の再生力モデルをそのものです。HTAはこのデスティネーション・マネジメントとブランディングの目的を達成するために大規模な調査を行いました。訪れる地域社会を尊重する訪問者を効率的に惹きつけることでハワイの正統なブランドを守り、その価値を高めていくために、HTAは率先して活動していきます。ハワイの実業界および観光産業の協力を仰ぎ、そうした訪問者を地域社会の一員として受け入れていきます。

「HTAは国際的に競争力のあるハワイブランドを守り、正統で市場にふさわしく、調和のとれた手段で、ハワイ固有の文化、多文化社会、自然環境に焦点をあてながら、その価値を高めていくために率先して活動し、ハワイ経済を支援していきます。」

〈HTA 戦略プラン2020-2025〉ブランド・マーケティングの柱

ハワイの観光統計のリンクは、
ハワイ州産業経済開発局の公式サイトを参照ください。

hawaii.gov/dbedt/info/visitor-stats

補助的な報告書はこちらから。

hawaiitourismauthority.org





間が暮らすいちばん近い大陸から何千マイルも離れ、モアナヌイアケア（Moananuiākea 広大な海）に囲まれた火山性のハワイの島々は海底から出現しました。島々の地質学的な誕生は数百万年前、ハワイ諸島の北西端に位置し、「クレ環礁」として知られるホラニク（Hōlanikū）はおよそ2,800万年前に誕生しました。ハワイ諸島の最南東にあり、地質学的に最も若いとされるハワイ島はおよそ40万年前に誕生し、最近では2018年のキラウエア（Kīlauea）火山の噴火により700エーカー近く面積が広がるなど、今も成長を続けています。ハワイ群島全体は太平洋の1,523マイルに広がる132の島、岩礁、砂州からなり、人が暮らすのはハワイ諸島と呼ばれる最南東の島々だけです。残りの島々は、世界で最も大きな海洋保護区のひとつ、パパハナウモクアケア（Papahānaumokuākea）に属しています。詳しくはこの章のパパハナウモクアケア（Papahānaumokuākea）の項をご参照ください。

ハワイ島 (Hawai‘i Island)

面積4,028平方マイル強（南北に約93マイル、東西に約76マイル）のハワイ島は、ハワイ諸島で最も大きく、最も若い島です。17世紀に豊かで平和な統治で人々に愛された首長ケアヴェイケカヒアリイオカモク（Keawe‘ikekahiali‘iokamoku）にちなみ、数多くのメレ（mele 歌）やオリ（oli 詠唱）のなかで叙情的にモク・オ・ケアヴェ（Moku o Keawe）と詠われています。他の島すべてがすっぽりおさまる広さがありながら、この島に住むのはハワイの人口のわずか14パーセント。この島の自然の美しさの鍵は、何マイルも続く手つかずの大地です。活火山に熱帯雨林、真っ黒な溶岩石の砂浜、牧草地、ビーチ、さらには降雪まで、この島は極端なものにあふれています。ハワイ島は世界の気候区分*のうち4つ以外のすべてが揃う島でもあります。こうした多様性に、歴史や文化、ハワイ島ならではの雰囲気が加わり、訪問者、住民どちらも満足できる体験を創造しています。

*オリジナルのケッペン気候区分による

詳しくはこちらから。 gohawaii.com/island-of-hawaii



絶滅危惧種 オヒアレファ (ōhi‘a lehua)

マウイ島 (Maui)

「渓谷の島」マウイ島は、ハワイ諸島で2番目に大きな島です。知性と独創性で知られた16世紀の首長ピイラニ (Pi‘ilani) にちなみ、数多くのメレ (mele 歌) やオリ (oli 詠唱) のなかで叙情的にホノ・アオ・ピイラニ (Hono A‘o Pi‘ilani) と詠われています。ピイラニはマウイ西部の6つのホノ (hono 湾) を統合し、平和と繁栄をもたらしました。マウイ島は世界的に有名なビーチやイアオ渓谷 (īao) でのハイキング、ホエール・ウォッチング・ツアー (冬期)、そしてハレアカラ (Haleakalā) から眺める壮大な朝日や夕陽で知られています。島の南部、西部のリゾート地には、他に類を見ないホテルや世界大会が行われるゴルフコース、産地直送のダイニングもあります。冒険好きなら、ハイキングやジップライン、小さなモロキニ島 (Molokini) 周辺でのシュノーケリング、パラセーリング、そしてアップカントリーのラベンダーファームも楽しめます。

詳しくはこちらから。 gohawaii.com/maui



カホオラヴェ島 (Kaho‘olawe)

カホオラヴェ島への交通手段は限られているため、観光地として紹介することを控えてください。文化的には、海の神であるカナロア (Kanaloa) に捧げられた島とされています。カホオラヴェは「運ばれていくもの」という意味を持ち、島を取り囲む強い海流を指しています。またカナロアとの繋がりが文化的な重要性から、数多くのメレ (mele 歌) やオリ (oli 詠唱) などで叙情的にコヘマラムラマ・オ・カナロア (Kohemālamalama o Kanaloa) と呼ばれています。マウイ島南に位置するこの島は過去に牧場や流刑地、第二次世界大戦から1990年までは米軍の爆撃訓練場としても利用されてきました。カホオラヴェ島での爆撃に反対する運動は1970年のハワイアン文化復興運動の中心であり、1994年に米軍が島の使用を中止してからは修復のための努力が続けられています。島を管理する機関に招待された場合のみ上陸可能です。

詳しくはこちらから。 kahoolawe.hawaii.gov



モロカイ島 (Moloka‘i)

モロカイ島は全長わずか38マイル（約61キロ）、いちばん距離があるところで幅10マイル（約16キロ）。海にのぞむ世界で最も高い岸壁と、ハワイで最も長い裾礁（フリンジングリーフ）がある島です。島民の献身と力強い祈りに敬意を表わし、数多くのメレ（mele 歌）やオリ（oli 詠唱）のなかでモロカイ・プレ・オオ（Moloka‘i Pule O‘o）と叙情的に表現されています。島民はハワイアンの比率が高いこともあり、簡素で伝統的なハワイ固有の生活様式が受け継がれています。モロカイ島を訪れるときは正しい心がけで、島への訪問が相互的な恩恵をもたらすように配慮してください。注意や歓迎を示す標識に注意して、モロカイ島の経済を支援することで地域社会にも貢献してください。舗装道路を離れず、標識の指示を守って土地への敬意を示しましょう。「カプ（Kapu）」と書かれた標識があるところは立入禁止です。モロカイ島在住のガイドの引率なしに指定の経路から離れないようにしてください。島のビーチは人影も少なく、ライフガードも常駐していません。海や天候の変化に気をつけて、島を去るときは、来た時よりも良い状態にしてお帰りください。

詳しくはこちらから。 gohawaii.com/molokai



ラナイ島 (Lāna‘i)

ハワイの人が居住する島で最小のラナイ島は「アンブラグ（電源をオフ）」にして、探検を楽しめる島です。壮大なオリ（oli 詠唱）にちなみ、叙情的にナナイ・カウラ（Nāna‘i Kaula）またはラナイカウラ（Lanaikaula、発音と表記は数通りあり）と呼ばれることもあります。カウラとは15世紀の首長、カウラヘア（Kaulahea、発音と表記は数通りあり）のこと。住民のいる島としてはハワイで最も小さい島ですが、地理的变化に富み、多様なアウトドア・アクティビティや文化体験が楽しめます。昔ながらの商店や食堂、由緒ある映画館が立ち並び、情緒と歴史にあふれる町ラナイシティを散策しましょう。体験クラスやワークショップを提供するラナイ・アート・センターもこの町にあります。ラナイ島を象徴するハイキングコース、プウペヘ・アイレット・ヘリテージ・トレイル（Pu‘upehe Islet Heritage Trail）も歩いてみましょう。多くの道路は未舗装で四輪駆動車が必要です。運転は時間に余裕を持ってアロハの心を忘れずに。スピードを落とし、行き交う車には親しみをこめて「ラナイ・ウェイブ（手を振って）」で挨拶しましょう。89,000 エーカー以上の面積に全長400マイルの四輪駆動車向け道路がありますが、島に信号はひとつもありません。

詳しくはこちらから。 gohawaii.com/lanai



オアフ島 (O‘ahu)

ハワイ諸島のなかで3番目の大きさで、文化的に多様で、ハワイ州民の多くが暮らし、様々な体験が楽しめる「集いの場所」として知られています。16世紀に位の高い首長で、寛大さや慈悲深さ、揺るぎないアロハの精神でハワイ全島に知られたカクヒヘヴァ (Kākuhihewa) にちなみ、数多くのメレ (mele 歌) やオリ (oli 詠唱) のなかで叙情的にモク・オ・カクヒヘヴァ (Moku o Kākuhihewa) またはケ・オネ・ア・カクヒヘヴァ (Ke One a Kākuhihewa) と呼ばれています。サウスショアでは都会的な生活、他の全域ではゆったりとしたハワイらしい田舎の生活があり、多様なイベントや文化的体験が楽しめるのがオアフ島の特徴です。州都ホノルル (Honolulu) は政治や経済、芸術など様々な活動の中心です。ワイキキ (Waikiki) は高級レストラン、ナイトライフ、ショッピング、そしてビーチのアクティビティで訪問者に大人気です。

第二の都市であるカポレイ (Kapolei) は西部にあり、リゾートホテルだけでなく、ユニークなショッピングが楽しめる他、本物の文化体験やボランティアの体験ができます。オアフ島ノースショアは美しい自然と、冬に訪れるビッグウェーブが有名です。歴史あるハレイワ (Hale‘iwa) の町では訪問者も住民もシェイプアイスを味わい、ガーリックシュリンプのトラックを訪れ、優れたビッグ・ウェーブ・サーファーによるサーフィンのレッスンを楽しめます。オアフ島は都会的な体験も、ウォーターパークやハイキング、シュノーケリング、ボート体験、釣りといった様々なアウトドア・アクティビティも体験できる島です。楽しい時間を過ごすときも、地域社会や住民の暮らす町、自然環境への配慮を忘れないようにしてください。

詳しくはこちらから。 gohawaii.com/oahu



カウアイ島 (Kaua‘i)

カウアイ島はハワイ諸島で最も古く、4番目に大きな島です。農業の技術革新で繁栄をもたらした14世紀の首長マノカラニポ (Manokalanipō) にちなみ、数多くのメレ (mele 歌) やオリ (oli 詠唱) のなかでカウアイ・オ・マノカラニポ、またはカウアイ・オ・マノ (Kaua‘io Mano) と叙情的に呼ばれています。カウアイ島はまた、エメラルドグリーンに輝く渓谷や、切り立った山頂、歳月によって侵食が刻まれた岸壁などの自然的特徴から、ガーデン・アイランドとしても知られています。川と滝、緑濃い谷間や美しいビーチ、そして息をのむ絶景を誇るカウアイ島には、海や空からでないといちり着けない場所もあります。究極な地形を活かしたゴルフ、ATVツアー、カヤッキング、シュノーケリング、ハイキング、スタンドアップパドル、ジップラインなど、様々な体験を楽しむことができます。

博物館や史跡、ファーマーズマーケット (サンシャイン・マーケットとも呼ばれています) やクラフトフェアなど、地域に根ざした文化や歴史も堪能できるカウアイ島。「ジャングル・クルーズ」「ファミリー・ツリー」「ジュラシック・パーク」「レイダース 失われたアーク」などが撮影された憧れの映画撮影地であり、ワイメア渓谷 (Waimea) やナバリ・コースト (Nāpali)、ワイルア川 (Wailua) など、想像を超える自然の驚異と出会える場所でもあります。農場や畑にはツアーや体験プログラ

ムを用意しているところもあります。ハナペペ (Hanapēpē) やコロア (Kōloa)、ワイメア、カパア (Kapa‘a)、ハナレイ (Hanalei) などのこぢんまりした町ではカウアイ島ならではのショッピングや食事が楽しめます。

詳しくはこちらから。 gohawaii.com/kauai

ニイハウ島 (Ni‘ihau)

私有地のニイハウ島への交通手段は非常に限られていて、上陸は所有者の許可がある場合のみと限定されているので、観光地として紹介することは推奨しません。1864年に島全体が購入されて以来私有地で、島の住民は現在約200名。その多くは18マイル (約29キロ) 離れたカウアイ島西部と行き来しながら暮らしています。ニイハウ島は、ニイハウ島最初の首長カヘレラニ (Kahelelani) にちなみ、数多くのメレ (mele 歌) やオリ (oli 詠唱) のなかでニイハウ・オ・カヘレラニ (Ni‘ihau o Kahelelani) と叙情的に呼ばれています。民に愛されたカヘレラニは、最も小さく貴重なニイハウシェルの名前にもなっています。珍重されるレイププ (lei pūpū 貝で作ったレイ) は、マカロア (makaloa) 編みのマットと共にニイハウ島の工芸品として有名です。



パパハナウモクアケア (Papahānaumokuākea)

クムリポ (Kumulipo) は、ネイティブハワイアンを様々な生命体と結びつける2,000行におよぶ系図のチャント (詠唱) です。この伝承によれば、珊瑚から始まって万物に至るまで、全ての生命はパパハナウモクアケア一帯で生まれ、進化しました。それ故に、珊瑚を創り、島々を誕生させた (hānau moku ハナウ・モク) 神々から、ネイティブハワイアンも含めてハワイ諸島にあるものまで、すべての生命体は繋がっています。パパハナウモクアケアは、最初のカナカ (kanaka 人間) の先祖である神パパ (Papa) とワケア (Wākea) にちなんだ名前です。

カウアイ島とニイハウ島の北西に1,350マイル続くハワイ群島には、小さな島々から海山、環状珊瑚礁、岸、砂洲が並んでいます。一帯は驚くほど多様な珊瑚、魚、鳥、海洋哺乳類、植物や動物の生息地で、その多くはハワイ諸島でしか見られません。文化的に重要な場所も沢山あります。一般に北西ハワイ諸島と呼ばれるパパハナウモクアケアですが、2006年大統領令により北西ハワイ諸島海洋国立遺産に制定されました。

2016年に範囲が広がり、今日では島々とそれを取り囲む海も含めて582,578平方マイルを包有する世界最大規模の海洋保護区です。パパハナウモクアケアはハワイ諸島国立野生生物保護区とミッドウェイ環礁国立野生生物保護区も含まれ、アメリカ魚類野生生物局 (NFWS) とアメリカ海洋大気庁 (NOAA)、ハワイ州が管理しています。パパハナウモクアケアへのアクセスおよび保護区内での活動すべてに許可が必要で、規定により一般の訪問が許可されるのはミッドウェイ環礁のみ。その場合も環境収容力の厳しいガイドラインが適用されます。パパハナウモクアケアはハワイにある国連に認定された世界遺産2つのうちのひとつでもあり、もうひとつはハワイ火山国立公園です。NOAAがハワイ島のヒロ中心部で運営する観光案内所モクパパ・ディスカバリー・センター

(Mokupāpapa) では、パパハナウモクアケアの様々な自然や文化を学ぶ機会を提供しています。

詳しくはこちらから。 papahanaumokuakea.gov

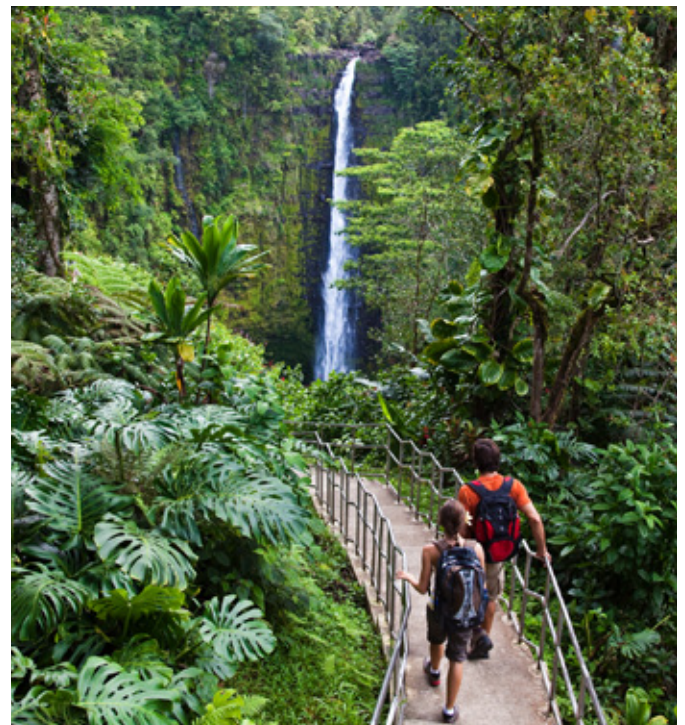
州立公園

ハワイ州立公園は50の公園からなり、すべての公園の総面積はおよそ3万エーカー。これらの公園で多彩なアウトドアのレクリエーションならびに文化遺産を学ぶ機会を提供しています。ハワイ州土地天然資源局が運営するハワイ州立公園の詳細は下記サイトを参照ください。

dlnr.hawaii.gov/dsp

公園に加え、ハワイ州ではナ・アラ・ヘレ・トレイル・アンド・アクセス・プログラム (Nā Ala Hele) に属する100以上のハイキングコースを管理しています。それぞれのコースの詳細が見られるインタラクティブな地図はこちらから。

hawaiitrails.hawaii.gov





国立公園

ハワイにはアメリカ国立公園局が管理する9つの国立公園があります。

オアフ島

- 真珠湾国立記念館
- ホノウリウリ国家史跡 (Honouliuli) (未公開)

モロカイ島

- カラウパパ国立歴史公園 (Kalaupapa)

マウイ島

- ハレアカラ国立公園 (Haleakalā)

ハワイ島

- アラ・カハカイ国立歴史トレイル (Ala Kahakai)
- ハワイ火山国立公園
- カロコ・ホノコハウ国立歴史公園 (Kaloko-Honokōhau)
- プウホヌア・オ・ホナウナウ国立歴史公園 (Pu‘uhonua O Hōnaunau)
- プウコホラ・ヘイアウ国立史跡 (Pu‘ukoholā Heiau)

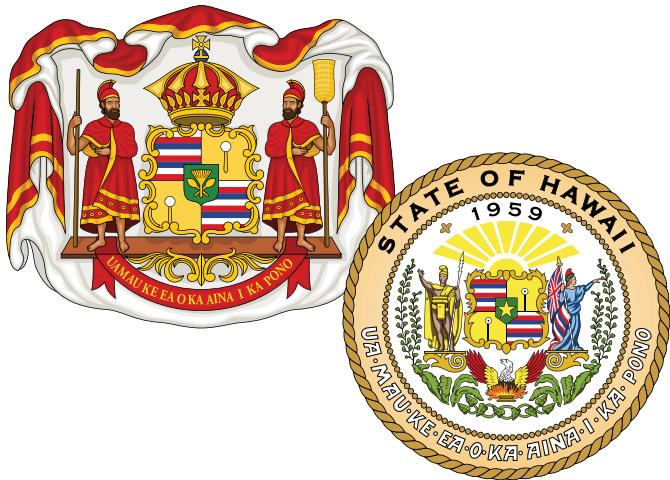
紹介する際に、安全性に触れる場合は、ハワイ州が訪問者に安全な環境を提供するために努めていること（あるいは似たような表現で）を明示ください。下記サイトでは訪問者の健康と安全、空港からのアクセス、その他の役立つ情報を提供しています。ハワイを訪れる際の局地的な情報や、注意報なども必要に応じて随時公開しています。観光関連企業のリンクも活用ください。

安全情報はこちらから。

gohawaii.com/trip-planning/travel-smart/safety-tips

ハワイ州成立

1893年ハワイ王国の転覆に続き、クーデターを指揮した人々は、米国への併合の道を整えるためにハワイ共和国の設立を企てました。



それから半世紀、米国議会はハワイ立州化のための働きかけを続けます。1959年米国両院合同決議にドワイト・アイゼンハワー大統領が署名し、同年6月にハワイで行われた投票でも立州化を支持する票が圧倒的で、1990年、ハワイ準州が成立しました。同年8月21日、ハワイは米国50番目の州と認められました。

ハワイ州の言語

オレロ・ハワイ (‘Ōlelo Hawai‘i ハワイ語) と英語。ハワイは米国で初めて、2つの公用語のひとつにその土地固有の言葉を採用した州です。オレロ・ハワイの歴史については〈ハワイの言葉〉の章をご参照ください。ハワイではハワイ語と英語のほかに中国語、日本語、フィリピン語、その他沢山の言語も話されています。ハワイ・クレオール英語、いわゆる「ピジン」は砂糖プランテーション時代にハワイ語と移民たちの使う言語が混ざって生まれたもので、オレロ・ハワイとは違う点にご注意ください。

ハワイ州のモットー

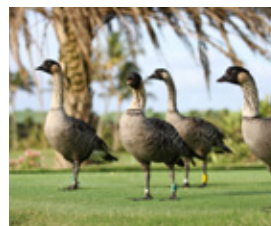
ハワイ州のモットーは「ウア・マウ・ケ・エア・オ・カ・アイナ・イ・カ・ポノ (Ua mau ke ea o ka‘āina i ka pono)」。

次のような意味です。

「大地の命は正義のもとに永遠に守られた」

1843年ハワイ王国が採用したこのモットーは、カメハメハ3世が英国からハワイ王国を奪回した際、式典の演説のなかで使われた言葉です。ハワイは、ハワイの王族たちには大きな負債があるというジョージ・パウレット卿の主張により、一方的に英国に併合されました。カメハメハ3世がロンドンにパウレット卿の蛮行を知らせ、海軍少将のリチャード・トーマスが帰還し、カメハメハ3世に主権を返却したのです。正式に主権回復が行われたホノルルの公園はハワイで最も古い公園で、トーマス・スクエアと名づけられています。公園にはカメハメハ3世の銅像も立っています。

このモットーはハワイ王国の国章に刻まれ、準州、共和国に続き、今はハワイ州の州章に刻まれています。(写真左)



州鳥

ネネ (nēnē ハワイガン) はハワイ諸島固有種の雁 (ガン) でハワイの州鳥とされています。ネネという名前はやさしい鳴き声が由来です。



州魚

フムフムヌクヌクアプアア (humuhumunukunukuāpua‘a タスキモンガラ) はハワイの州魚です。この小さな魚はハワイ固有種で、長い名前がしばしば人々の話題に上ります。



ハワイ固有の木

ハワイの原生林のおよそ80%近くを占めるオヒアレフア (‘ōhi ‘a lehua 学名 *Metrosideros polymorpha*) は要となる種と考えられています。2022年7月ハワイ州の法律でハワイ固有の樹木と認定されました。オヒアレフアはネイティブハワイアンのもオレロ (mo‘olelo 歴史) やメレ (mele 歌)、オリ (oli 詠唱) に頻繁に登場します。その花の濃厚な蜜は絶滅の危機に瀕したハワイ固有の森の生物を支えてきました。オヒアの木は現在、「ラピッド・オヒア・デス (Rapid ‘Ōhia Death)」と呼ばれる病原菌による危機にさらされています。詳しくは〈自然資源〉の章をご参照ください。



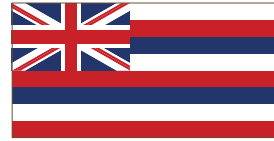
州花

ハワイ固有種でハワイ語名はマオハウヘレ (ma‘ohauhele 学名 *Hibiscus brakenridgei* A. Gray)、英語では黄色いハイビスカスと呼ばれています。



州木

ハワイ語名はククイ (kukui 学名 *Aleurites moluccana*)。メレ (mele 歌) にもよく描かれるこの木は、崖を背景に明るい葉の色が目立つのですぐに見つけられます。文化的にも重要で、照明に使う油も採れ、ハワイの魚料理の香辛料としても使われます。その実はレイにも使われます。



州旗

ハワイの旗、カ・ハエ・ハヴァイイ (Ka Hae Hawai‘i) はハワイ州を象徴する州旗です。1845年、カメハメハ大王とジョージ・バンクーバー艦長がデザインし、公式な旗となりました。ハワイ王国、暫定政府、共和国、ハワイ準州の時代を通して、ずっとこの旗が使われています。英国のユニオンジャックが使われている米国の州旗はこれだけで、ハワイがかつて大英帝国の保護領だった時代の名残です。米国旗とともに掲げるのが通例ですが、ハワイ王朝の面影を今に伝えるものとしてハワイ州旗のみが掲げられている場所もあります。オアフ島ホノルルではイオラニ宮殿、マウナアラ (Mauna‘ala) とトーマス・スクエアの3ヶ所。4ヶ所目はマウイ島のラハイナ (Lahaina 表記と発音には数通りあり) にあるワイオラ墓地 (Waiola) です。

ハワイ標準時刻

ハワイでは年間を通してグリニッチ標準時刻から10時間マイナスしたハワイ標準時刻 (HST) が使われます。サマータイムは使いません。例えばパシフィック標準時刻がサマータイムを適用していない時期はカリフォルニアとハワイの時差は2時間、サマータイムを適用している時期は時差が3時間になります。

国際空港

オアフ島のダニエル・K・イノウエ国際空港（HNL）とハワイ島ケアホレ（Keāhole）にあるエリソン・オニツカ・コナ国際空港（KOA）。現在この2つの空港で国際線の飛行機が発着しています。

さらに、マウイ島のカフルイ空港（Kahului OGG）とカウアイ島のリフエ空港（Līhu‘e LIH）ではカナダとの国際線が運航されています。

ヒロ国際空港（Hilo ITO）も国際空港に指定されていますが、現在は国際線の運航はありません。

hidot.hawaii.gov/airports/visitor



サーフィン

ハワイ語でヘエナル（he‘enalu 波を滑る）と呼ばれるサーフィンは、ネイティブハワイアンにとっては地位の象徴でした。カメハ

メハ大王とその妻カアフマヌ（Ka‘ahumanu）はコナビーチで共にサーフィンを楽しみました。宣教師によってサーフィン、フラなどの文化的活動は禁止されますが、やがてデビッド・カラカウア王（David Kalākaua）が復活させました。1895年、リリオカラニ女王（Lili‘uokalani）が強制的に王位の放棄を迫られ、サーフィンなどの文化的活動は衰退します。

1890年生まれのデューク・カハナモク（Duke Kahanamoku）は「近代サーフィンの父」として尊敬されています。ネイティブハワイアンの血を引くデュークは天性のスポーツマン、ウォーターマンで、オリンピックメダルを5つ獲得し、映画にも出演。ホノルル市の保安官にも選出されました。

サーフィンは2020年のオリンピックから公式種目になりました。現代ハワイのサーフスターであるカリッサ・モーアもネイ

ティブハワイアンの子孫です。世界サーフィンリーグ決勝戦では世界チャンピオンの座に5回輝き、2020年夏のオリンピックではサーフィン種目初の金メダルを獲得しました。

ハワイには人気のサーフスポットが沢山ありますが、訪問者は海に入る前に、安全を心がけ海への敬意を忘れないようにしましょう。サーフスポットに英語の通称があるときは、例えば「ペアヒ（Pē‘ahi）はジョーズと呼ばれることも多い」というふうに、まずハワイ語の地名を挙げ、必要に応じて英語の通称を加えてください。詳しくは〈正式な地名〉の章をご参照ください。

アウトリガーカヌー・パドリング

ポリネシアの探検家たちは1,000年以上昔、星を頼りにアウトリガーカヌーでタヒチやボラボラからハワイへと渡ってきました。アウトリガーカヌーはポリネシア文化の礎ともいえます。カヌーを削る職人は人々の尊敬を集め、村の女性達は力を合わせて帆を織り上げました。

1950年代、革新的な超軽量カーボンがカヌー材として導入され、カヌーは軽く速くなり、アウトリガーカヌーレースの人気が高まりました。ハワイが生んだ伝説的なウォーターマン、デューク・カハナモク（Duke Kahanamoku）らは1950年、





ハワイアン・カヌー・レーシング・アンド・サーフィン・アソシエーションを発足させます。1976年、遠洋用のハワイの双胴船、ホクレア（Hōkūle‘a）が海流と星など自然の力だけを頼りにした伝統的な航海術によってハワイからタヒチまで太平洋を渡る最初の旅に成功し、アウトリガーカヌーへの関心はますます高まります。30日間をかけた2,500マイル（約4,023キロ）の航海は、古来から伝わる叡智回復のきっかけとなり、トレーニングを受ける若い世代の航海者や海洋探検家にも刺激を与えました。ハワイのアーティストであり、歴史研究家でもあったハーブ・カワイヌイ・カネ（Herb Kawainui Kāne）は、ハワイの文化と伝統的な航海術の復興を目指し、ポリネシアから来た先祖たちが使ったものに似た双胴のカヌーを設計しました。

2014年、航海用カヌー、ホクレアは世界各地の人々と絆を結び、昔からハワイの人々が自分たちの島々を大切にしてきたように地球を大切にしようというマラマ・ホヌア（Mālama Honua）の精神を伝えるために、3年かけて地球を巡る旅に出ました。

2023年、初航海から48周年を記念してホクレアは環太平洋を巡る旅に出ました。ホクレアは、ネイティブハワイアンとポリネシア人にとって重要な文化復興の象徴なのです。

再燃した環境保護意識の高まりは、自分たちのふるさとをマラマ（mālama 思いやる心）しようという個人的、そして社会的取り組みを導いています。

ポリネシアからの航海者たちがハワイの浜辺に初めてたどり着いたとき、そこは複雑かつ密接にからみあう自然のサイクルで生態系が機能する地でした。数百万年前から人間の影響を受けずに発展した生態系です。

初期のハワイアンは、植物や動物、そして生き延びるための技術を持ち込み、そこにすでにある環境要素との調和を行いました。西洋文明との接触以前、最盛時には25万から100万人のハワイアンが、島という限られた資源で需要を満たし、安定した社会を営んでいたと考えられています。

1700年代後期の西洋文化との接触に続き、世界の他の地域との新たな繋がりにより、社会的な新しい優先順位が生まれますが、それはハワイ元来の規範と比べて資源の保護に大きな価値を置いていませんでした。この新たな優先順位がその後数世紀にわたって計画や意思決定の基盤になり、ハワイを他とは違う特別な場所にしている自然資源への負担は増加する一方でした。

2014年、ハワイの郡および州政府の指導者たちは、持続可能な目標を達成するために州全体で努力していくことを宣言するアロハプラスチャレンジ (Aloha+Challenge) に署名しました。国連の持続可能な開発目標 (SDGs) を実施するための地域主体の枠組みです。ハワイのリーダーシップは国連にも注目され、2018年には世界に先駆けて地域社会の取り組みを先導する最初のローカル2030ハブ (Local2030 Hubs) のひとつに指定されました。

持続可能性の目標達成のためのハワイ州の取り組みや、2030年を目標に持続可能な未来を目指す地域主体の枠組みに関する情報や学習の機会については、ハワイ・グリーン・グロース (Hawai'i Green Growth) のウェブサイトのアロハプラス・チャレンジ (Aloha+Challenge) ダッシュボードをご覧ください。

詳しくはこちらから。

aloha-challenge.hawaiigreengrowth.org

ハワイへの旅にはクレアナ (kuleana 責任) もついてきます。クレアナとは、土地だけではなくハワイで暮らす人々や野生動物植物にも思いやる心を持つことです。ハワイへ旅するときはマラマ (mālama 思いやる心) の精神を忘れないください。

詳しい情報はここから。 gohawaii.com/malama



意識の高い

訪問者にできる取り組み

- 水筒を持ち歩きましょう。
多くのホテルやリゾートには給水機があります。
- ハワイ滞在中はエコバッグを持ち歩きましょう。
2015年からハワイではレジ袋の配布が禁止されています。
- プラスチックやビニールは風に飛ばされやすく海の環境破壊に繋がります。プラスチックの代わりに生分解性あるいは土に還る製品を使いましょう。
- アウトドアアクティビティの際は、どのようなものであれ、全て必ず持ち帰りましょう。
- ごみは所定のごみ箱に捨てましょう。
- アルミニウムやプラスチックのボトルは、リサイクルと表示のある容器に入れましょう。
- 日焼け止めは珊瑚にも安全なミネラル原料のものを
持参するか、訪問中に購入しましょう。

アフプアア (Ahupua'a) : 伝統的な土地区分

アフプアアは山の尾根から浜辺にいたるまでのハワイの伝統的な土地区分です。新鮮な水源、農耕地、木の実などを集める森へのアクセス、魚を採る浜辺へのアクセスなど、地域社会の維持に必要なものはすべてアフプアア内か、近辺のアフプアアとの協力により調達され、高い土地での活動が低い土地や海辺の環境に直接影響することも理解した上で分けられていました。現代のハワイの分水界管理戦略は、アフプアアのシステムを取り入れています。



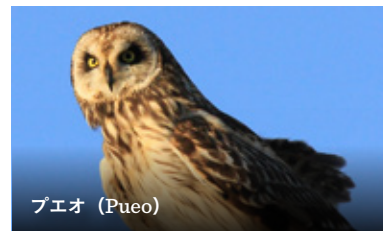
カプ (Kapu) : 伝統的な資源管理

伝統的な資源管理のための規律は、ハワイアン生活を左右していました。例えば産卵期の魚を採ることはカプ（禁止）でした。自然資源の管理を中心に日々の生活が営まれていたことは、生態系がいかに重視されていたかを物語っています。浅瀬の魚の養殖管理システムは今も存在します。魚釣りや狩猟の解禁シーズンなどの規則については、土地天然資源局の情報を確認してください。

詳しくはこちらから。 dlnr.hawaii.gov



オペアペア ('ōpe'ape'a)



プエオ (Pueo)



ホヌ (Honu)

写真上：絶滅危惧に瀕した固有種

アロハ・アイナ・プログラム (Aloha 'Āina Program)

ハワイ・ツーリズム・オーソリティのアロハ・アイナ・プログラムはアイナ・カナカ ('āina-kānaka 土地と人間) の関係を強調し、ハワイの自然資源と環境の管理、保護、活性化ならびに改良を目指す、地域社会に根ざしたプログラムを支援しています。支援プログラムは、毎年沢山の応募の中から選出されます。

詳しくはこちらから。

hawaiiourismauthority.org/what-we-do/hta-programs/natural-resources/

野生動物

太平洋の真ん中に隔離されたハワイには、ここでしか見られない固有種が非常に高い割合で存在しています。ハワイ固有種の多くは今、絶滅の危機に瀕しています。陸生哺乳類のハワイ固有種はオペアペア ('ōpe'ape'a ハワイアン白コウモリ) のみ。他の陸生哺乳類はすべて人間が持ち込んだものです。

絶滅危惧種

ハワイは世界の他のどこよりも絶滅危惧種が多いため、これらの種と繊細な生態系の保護を心がけなければなりません。例えばホヌ（honu ハワイアンアオウミガメ 学名 *Chelonia mydas*）やイリオホロイカウアウア（‘ilīoholoikauaua ハワイモンクアザラシ 学名 *Neomonachus schauinslandi*）は絶滅危惧種として法律で保護されています。こうした動物と人が接触している写真の使用は控えましょう。大人のホヌは不安を感じたことのある浜辺に巣作りをしません。人に接触されたイリオホロイカウアウアの母親も同様で、お気に入りのビーチはおろか、ときには離乳前の子供さえも置き去りにしてしまいます。

野生動物は適切な距離をとって観察しましょう。NOAAが推奨する距離はイリオホロイカウアウアで150フィート（約45メートル）、ホヌは10フィート（約3メートル）です。野生動物たちは、近くに人がいると生きていきません。写真や紹介する際はこれらの動物が絶滅危惧種であることを必ず明記し、人と接触している写真や人が近づきすぎている写真の使用は控えください。絶滅危惧種に関する規則に反した人は罰金最高15,000ドルが課せられます。（ハワイ州行政規定州法第13-124条、ハワイ修正法令第187A-12.5条）



イリオホロイカウアウア（‘ilīoholoikauaua）絶滅の危機に瀕する固有種



在来種の森から外来種を取りのぞくボランティアの人々

外来種

地理的に孤立している他の場所と同様に、ハワイの環境も外来種の悪影響を受けています。在来種とは人間の手によらずハワイの島々にたどり着いた動植物で、何世紀ものあいだ外来の動植物や害虫から身を守る術を発達させる必要がありませんでした。飛行機や船が世界中からハワイに到着する現代の国際社会において、外来種の脅威は日常的なものになっています。

意図的であろうとなかろうと、外来種の到来は従来からの生態系に大打撃を与えます。ヒマラヤン・ジンジャーやミコニア、アルビジアなどの植物は森全体に広がり、他の植物の成長を妨げ、根が浅いため侵食の危険も高めています。鹿やヤギは様々な固有種の植物や農作物を食い荒らし、蹄が地面の表層部を痛めて侵食を進めています。小さなヒアリは公園や住居、固有種の生息地にはびこり、人々を噛んで苦痛をもたらします。ハイキングの前には靴やブーツをよく払い、種などの植物片の拡散を防ぐなど、誰でもできる行為で外来種の広がりを食い止めることができます。ハワイの景色に外来種が映り込んでいる写真やビデオを使用しないでください。



写真提供：J.B. FRIDAY, UNIVERSITY OF HAWAII

ラピッド・オヒア・デス (急速なオヒアの枯死)

ハワイ州では在来種であるオヒア（'Ōhi'a）の木が病原菌により枯れています。「ラピッド・オヒア・デス（Rapid 'Ōhi'a Death）」あるいはRODと呼ばれる2種類のセラトサイスティス菌（Ceratocystism）により、すでに100万本以上のオヒアが枯死しました。より致命的な菌はセラトサイスティス・ルクオヒア（Ceratocystis lukuohia ハワイ語でルクオヒア（luku'ōhi'a）は、オヒアを死滅させるもの）と名づけられ、ハワイ島とカウアイ島で発見されました。進行が遅いほうの菌はセラトサイスティス・フリオヒア（Ceratocystis huliohia ハワイ語でフリオヒア（huli'ōhi'a）はオヒアを崩壊させるもの）と名づけられ、ハワイ島、マウイ島、オアフ島、カウアイ島で見つかっています。健康な木々も数日から数週間で枯れてしまいます。媒介するのは、感染した木や汚染された道具、服、車などを別の地点に移動させる人間です。他に考えられるのは野生の有蹄動物や甲虫です。感染したオヒアの木を食べた甲虫の糞粒に菌の胞子が混ざり、風に乗って遠くに運ばれることもあります。こうした胞子が着地した木に折れた枝や傷があると、その木も感染してしまうのです。症状が出た木を回復させる効果的な処置がないため、未来の世代もオヒアの森を楽しむためには、感染が広がらないように予防を徹底することが非常に重要です。

在来種オヒアの森では、RODの被害が最も深刻な区域でも、この菌に負けずに生き残っている個体もあります。これらの個体の研究が進めば、将来、病気に強いオヒアを開発する基礎となるかもしれません。RODに破壊されたオヒアの森を復元させるために、耐性のあるオヒアの苗木が植えられる日が来る可能性もあります。



オヒアレファ（'ōhi'a lehua）絶滅危惧種

感染を広げないための ガイドライン

- ハワイの島々を訪れる前に、機材や服をお湯と石鹸で洗ってください。
- オヒアの木を傷つけないようにしましょう。傷から菌が入り、感染の危険が高まります。
- オヒアの木の前や根を傷つけないのを避けるため、近くで重機を使用しないでください。フェンスを設置し、外来種の動物（豚や羊、牛）を排除することもオヒアをはじめ在来種の森の保護に繋がります。
- オヒアの木材、あるいはオヒアで作られたものは、処置をするまで動かさないでください。
- オヒアを別の島に持ち込まないでください。
- 森に出入りするときは必ず器材や道具、靴、服も含めて洗濯および掃除をしてください。
- 70%以上の消毒用アルコールか希釈した10%漂白剤を準備し、靴を消毒してください。
- 運転中に車に付着した泥は高圧洗浄機で洗い流してください。

詳しくはこちらから。 cms.ctahr.hawaii.edu/rod/

または rapidohiadeath.org

敬意を持って大切にする精神

訪問先を大切にするためには、準備や知識を身につけることが必要です。ハワイ滞在中に訪れる場所に敬意を払い、思いやる心を持つことの秘訣を紹介します。配慮を持って行動することで、未来の世代もハワイを楽しむことができるようになります。

珊瑚

ハワイの珊瑚は壊れやすい生態系で、その上に立ったり生きている珊瑚を採ったりする人によって損傷を受けてきました。ビーチを訪れても、珊瑚を採ったり傷つけたりしないでください。珊瑚はもちろん、珊瑚が付着している岩もハワイ州の法令で保護されています。珊瑚を破損したり、持ち帰ったり、不法に取得した珊瑚を売却したりといった行為は禁止されています。珊瑚を破損した場合、最大3,000ドルの罰金が課せられます。(ハワイ州行政規定州法第13-95条、ハワイ修正法令第187A-12.5条)

珊瑚を傷つけない日焼け止め

2018年、ハワイは珊瑚の白化の要因となる化学物質オキシベンゾンとメトキシケイ皮酸エチルヘキシルを含む日焼け止めの販売を禁止する最初の州になりました。さらにマウイ郡では、処方箋なしの非ミネラル系日焼け止めの販売、配布、使用を禁止する法令も可決されました。ハワイ滞在中は珊瑚にやさしいミネラル系の日焼け止めをお使いください。(ハワイ修正法令第342A-21条)



ワイ (Wai)

ワイ (水)、淡水は生命の源であり、カネ神 (Kāne) の化身です。伝統的なハワイの社会では、アリイ (ali'i 首長) も含め、水は誰のものでもありませんでした。貴重な資源である水を管理する上での厳しい規則もありました。山から海まで伝統的な土地区分であるアフプアア (Ahupua'a) は滝から溪流、溪流から川、タロ畑、魚の池、そして最終的に海にたどり着くワイを基本にして考えられていました。アフプアアで生活する人々の共同社会としての意思や方針は、ワイなしでは暮らしが成り立たないという理解を前提に決められていました。豊かさを意味するワイワイ (waiwai) という言葉があるように、沢山のワイこそが生活の基盤だと考えられていました。



ロコイア (Loko I‘a 魚の養殖池)



養殖池（ロコイア）はアフプアア（ahupua‘a 土地区分）システムの特徴で、地域社会に養殖の魚をもたらしました。最盛期には500近くの養殖池があったとされ、外の世界に頼らずとも多くの

人口を支えていました。池で育てた魚は日々の食料や儀式に使い、生活に欠かせない資源を濫用しないように慎重に管理されていました。池が沢山あるアフプアアのアリイ（ali‘i 首長）は裕福とみなされました。石で築かれた池の多くは海岸線付近にありました。今日、地域社会が率先して修復と補強作業を行った結果、ロコイアに纏わる伝統的な慣習から得られる教訓を中心とした教育や体験プログラムができるようになりました。こうした慣習は健全な地域社会を育むだけでなく、池での肉体労働による健康維持と文化継承にも役立ちます。

火山

休火山、活火山にかかわらず、ハワイの火山を訪れる際は、安全の確保と敬意を忘れないようにしてください。火山はハワイの神々の住まいであり、人間は部外者です。火山周辺には割れ目や深い穴も多く、訪問者自身の安全のためにも勝手に所定のトレイルを離れないように注意喚起する標識もあります。砂（海の砂も火山の砂も）や珊瑚、珊瑚の破片、石や土を持ち帰ることはハワイの法令で禁じられています。（ハワイ修正法令第205A-44条（2013）、第171-58.5条）米国国立公園保護官および職員の指示に従ってください。



活火山

- カマエフアカナロア (Kama‘ehuakanaloa) (海底火山 ハワイ島南東) 最後の噴火は1996年。別名ロイヒ (Lō ‘ihi)
- キラウエア (Kilauea) (ハワイ島) 2022年11月現在ハレマウマウ・クレーター (Halema‘uma‘u) で噴火中。
- マウナロア (Maunaloa) (ハワイ島) 2022年11月現在モクアーヴェオヴェオ・クレーター (Moku‘āweoweo) で噴火中。

活動休止中の活火山

- フアラライ (Hualālai) (ハワイ島) 最後の噴火は1801年。
- ハレアカラ (Haleakalā) (マウイ島) 最後の噴火は1790年。
- マウナケア (Maunakea) (ハワイ島) 最後の噴火は推定4,000年前。

ハワイの伝承のなかで、火山活動は破壊ではなく創造や再生と結びついています。

世 界各地の言語は、その土地のアイデンティティや歴史文化、地域社会の伝統や代々受け継がれてきた記憶などが詰まった宝庫です。人々が話す言語は、その土地への知識と理解を解き放つ鍵なのです。オレロ・ハワイ (‘Ōlelo Hawai‘i ハワイ語) はハワイ固有の言語です。ポリネシアから渡来した最初の人々がハワイにもたらした言葉は文化とともに発展し、幾層ものニュアンスを持った、現代の私たちが知っているオレロ・ハワイに進化しました。

19世紀初頭に文字が一般大衆に紹介されると、ネイティブハワイアン、外国人に関わらずハワイの住民たちはハワイ王国の隅々にまでハワイのニュースと世界の不思議を伝えるオレロ・ハワイ・ヌペパ (‘Ōlelo Hawai‘i Nūpepa ハワイ語の新聞) を貪るように読みました。世界で最も進んだ国々に匹敵する識字率を誇る国際色豊かなハワイ王国の臣民は、土地固有の言語であるオレロ・ハワイを使って日々の暮らしを営んでいました。1893年ハワイ王国の転覆以降、ハワイの文化的慣習や生活習慣、芸術と同様にハワイ語も廃れていきます。学校でハワイ語を教えることを禁じた1896年の法令もハワイ語の衰退に拍車をかけました。(ハワイ共和国法令57条30項)

1970年代のハワイ文化復興運動により、消滅しかけていたハワイ語にも復興のきざしが訪れます。1980年代初頭、ハワイ語を話す子供が50人に満たない事実衝撃を受け、一部の教育者は子供たちとハワイ語を話す年配者との交流機会としてハワイ語を学べる幼稚園を設立しました。こうした試みが成功して教育システムの基礎が確立し、今日では「ハワイ語および固有の言語と文化の活性化」の研究で博士号が取得できるようになりました。

ハワイ語の標準化

オレロ・ハワイ (‘ōlelo Hawai‘i) の標準化を目指し、ハワイ・ツーリズム・オーソリティではすべての出版物でハワイ語を正しく表記するように全力を尽くしています。2022年、HTAとパートナー機関は印刷物だけではなくデジタルフォーマットでもオキナ (‘okina) とカハコー (kahakō) を正しく表記することを決定しました。ウェブサイトの最適化を含め、多くの考察と努力を要しましたが、すべてはハワイ語を正しく適切に表現するためです。ハワイの物語を正しく伝えてハワイ、オレロ・ハワイに命を与えることは私たちひとりひとりのクレアナ (kuleana) です。HTAでは事業名にも正確なハワイ語表記を使うことを奨励していますが、個々の業務内容や印刷物については各事業の判断を尊重しています。HTAは今後もハワイ語の標準化を支援する機会を探っていきます。

米国で初めて土地固有の言語を公用語に採用したハワイ州ではハワイ語が再び重視されていますが、ハワイ語は未だ国連の極めて深刻な消滅危機言語に指定されています。

ハワイ語の標準化はHTA、ハワイ語のネイティブスピーカー、そしてハワイ社会共通の目標です。オレロ・ハワイが今後も存続し続けるためには、私たち一人ひとりがハワイ語を正確に、敬意を持って使用することが重要です。適切なつづり、正しい用法、正確な表記を心がけましょう。私たちの故郷の言葉が今後も大切に保護されるように、正確に編集されたハワイ語の資料をご参照ください。

文化復興運動とハワイ語についての詳細はこちらから。

ahapunaleo.org

単語の省略と切り詰め

ハワイ語の単語や名前は短くすると別の意味になる場合もあるので省略しません。例えば人の名前を「省略して呼んでもいいですか」と尋ねるのは失礼にあたります。カメハメハ・デー (Kamehameha Day) をカム・デー (Kam Day)、マヒマヒ (mahimahi) をマヒ (mahi) と呼ぶのも悪い例です。

アルファベット

標準ハワイ語のピーアパー (pī‘āpā アルファベット) は二部構成です。ナー・フアパラパラ (Nā Huapalapala 基本のアルファベット) はハワイ固有の発音を持つ単語に使われます。

A (‘ā アー)、E (‘ē エー)、I (‘ī イー)、O (‘ō オー)、
U (‘ū ウー)、H (hē ヘー)、K (kē ケー)、L (lā ラー)、
M (mū ムー)、N (nū ヌー)、P (pī ピー)、
W (wē ヴェー)、‘okina オキナ

ナー・フアパラパラ・パイパラハ (Nā Huapalapala Paipalaha 聖書の翻訳によって導入されたアルファベット) はハワイ語以外の言語の発音表記に使われます。

B (bā ベー)、C (sā セー)、D (dā デー)、
F (fā ファー)、G (gā ガー)、J (iota イオタ)、
Q (kopa コパ)、R (rō ロー)、S (sā サー)、
T (tī ティー)、V (wī ヴィー)、X (kesa ケサ)、
Y (ieta イエタ)、Z (zeta ゼタ)

例: Iesū (イエス)、Betelehema (ベツレヘム)

大文字の使用

ハワイ語の大文字使用の規則は英語に準じます。ハワイ語だからという理由だけでハワイ語の単語を文章の途中で大文字にするのは適切ではありません。



辞書

HTAではメアリー・カヴェナ・プクイとサムエル・エルバート共著の「ハワイアン・ディクショナリー (Hawaiian Dictionary)」を基準とし、現代的な単語については「ママカ・カイアオ (Māmaka Kaiao)」を補足資料として使っています。どちらもオンラインでアクセス可能です。

詳しくはこちらから。 hilo.hawaii.edu/wehe/

ハワイ語の名前

ハワイ語の名前を軽々しくつけないように配慮をしてください。オレロ・ハワイ (‘ōlelo Hawai‘i) や名づけの作法に精通していない人はハワイ語の名前をつけるべきではありません。

ハワイアン (形容詞として)

「ハワイアン」は英語の単語扱いでオキナ (‘okina) は使いません。人を「ハワイアン」と形容するときはネイティブハワイアンの血を引く場合のみです。ネイティブハワイアンの血を引いていないハワイの住民は、自分を「ハワイアン」とは呼びません。ネイティブハワイアン以外の住民を指す場合、「ローカル」、

「ハワイの住民」、または「カマアイナ (kama‘āina)」という言葉を使います。カマアイナは直訳すれば「その土地の子供」という意味ですが、現代ではハワイ諸島で生まれていなくても長くハワイで暮らしている人のことを広く指すのが一般的です。「ハワイアン」という言葉はまた、人間との接触がはじまる前からハワイの島々に存在した動植物にも使われます。

オレロ・ノエアウ (‘Ōlelo No‘eau)

ハワイ語は情緒ある言葉で、人やできごと、感情を表現するときに自然や自然現象を引用して叙情的に表現します。こうした表現を集めた本が、メアリー・カヴェナ・プクイが収集、翻訳し、注釈を加えたハワイ語格言・詩的表現集「‘Ōlelo No‘eau: Hawaiian Proverbs & Poetical Sayings」です。オレロ・ノエアウからの引用には番号が使われることがあります。本ツールキットのなかでの引用にもこの番号を用いています。



正しい表記

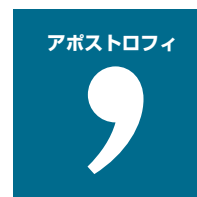
ハワイ語を正しく使うためにはオキナ (‘okina、声門停止音、子音のひとつ) とカハコー (kahakō、長く伸ばす母音を表す長音記号) が欠かせません。オキナとカハコーは多くの単語の特徴であり、これがないと意味が変化します。例えばono (魚の一種) と ‘ono (おいしい)、kau (置く) と kāu (あなたの) は別の単語です。

オキナ (‘Okina)

アポストロフィは数字の9と同じ向きですが、オキナは数字の6と同じ向きです。子音であるオキナを使うときは、単語の頭に使うときも母音のあいだに使うときも他の文字と同じように正しく一文字分のスペースを用いて表記します。

正確な表記のためのハワイ語キーボードの

インストール方法はここから。nahha.com/olelo-hawaii



カハコー (Kahakō)

カハコーはā, ē, ī, ō, ūのように母音の上のみ使われます。

どの資料を調べても現代の正確な表記の仕方が不明な場合はオキナとカハコーなしで表記します。ただし、調べるのが面倒だからとこの手段をとらないようにしましょう。ハワイ語の表記の参考書籍やウェブサイトは、この章の〈辞書〉の項を参考にしてください。

ピジンと「ピジン・イングリッシュ」

ピジンとは多様な言語や文化（ハワイ語や日本語、中国語、フィリピン語、ポルトガル語など）からの単語やフレーズ、言い回しが混ざったハワイ独特の方言です。ネイティブハワイアンや移民労働者、外国人の農場主などが意思疎通を図る上で必要に迫られて発達しました。ハワイ・クレオール・イングリッシュとしても知られるピジンには、ハワイ語の単語も多く取り入れられていますが、すべてがハワイ語というわけではありません。ピジンの単語やフレーズを「ハワイ語」と混同しないようにご注意ください。例えば、kaukau（食べもの）という言葉はピジンで、ハワイ語ではありません。

地名

本ツールキットで使用するハワイ語の地名は、メアリー・カヴェナ・プクイ、サミュエル・エルバート、エスター・モオキニ共著の「ハワイの地名 (Place Names of Hawai‘i)」を参照しています。地名にはハワイ語の使用が奨励されています。詳しくは〈正式な地名〉の章をご参照ください。

複数形

ハワイ語の単語は英語のように複数形は使いません。例えば「lei」の複数形も「lei」で、「leis」ではありません。「How many leis should I make for the birthday party?」のように、英語の文章のなかでは複数形が使われることもあります。ただし、人を表す単語のなかには、主にカハコー (kahakō) を使って独特の複数形にするものもあります。

単数形	複数形	訳
'aumakua アウマクア	'aumākua アウマークア	家族の守り神 (家族の守り神たち)
kahuna カフナ	kāhuna カーフナ	司祭 (司祭たち)
kupuna クプナ	kūpuna クープナ	祖父母 (祖父母たち)
makua マクア	mākua マークア	親 (親たち)
wahine ワヒネ	wāhine ワーヒネ	女性 (女性たち)

所有格

ハワイ語の単語や名前を所有格にするときは、例えば「Hawai‘i’s」、「Kaua‘i’s」、「O‘ahu’s」のように、発音区別符号をそのまま使います。

正しい姓名

人名表記の際の正確なつづりや表記の仕方は個人の判断に委ねられます。今日のハワイ語表記の基準とは違う形で名字を表記する人は少なくありませんが、個人の好みは尊重されています。

正確な事業名

各事業が制作する印刷物やロゴに反映されない場合もありますが、事業名や団体名には正確なハワイ語表記を奨励しています。

くり返しのある単語

「マヒマヒ (mahimahi)」、「ロミロミ (lomilomi)」、「プブ (pūpū)」、「ムームー (mu‘umu‘u)」など繰り返しのある単語はひとつの単語として表記します。単語を分けたり、省略したりしません。例えば「ムウ (mu‘u)」は「ムームー (mu‘umu‘u)」とは違う言葉です。同じ意味を持つハワイ語と英語の単語をひとつにするということもありません。「ネネ (nēnē 雁)」のように、ハワイ語の単語のあとにかっこ書きで意味を示す表記方法を推奨します。

ハワイ王国

かつてハワイ諸島は地区ごとに首長がいて支配していました。やがて首長たちは島全体に領地を広げはじめます。

1795年カメハメハ大王が

ハワイ諸島のほぼ全域を制圧し、1810年カウアイ島とニイハウ島が外交的取り決めによってハワイ王国に譲渡され、ハワイ統一が完了しました。

ハワイ王国は条約や貿易協定により諸外国からも国家として認められ、1810年から1893年にわたって8代の君主によって統治されます。

君主による統治は、米国海兵隊の支援を受けた一部の外国商人と宣教師の子孫によりリリウオカラニ女王 (Lili‘uokalani) が王権を剥奪されて終焉を迎えました。



ハワイ王国の崩壊

各自の統治下にあったハワイ諸島の統一から一世紀近く、ハワイ王国がハワイを統治していました。世界でも有数の識字率へと導いた公教育システムや国際貿易も確立し、農業も盛んで、労働力としての移民の管理も行われていた時代でした。イオラニ宮殿には、時代に先駆けて電気や配管設備、電話も設置されていました。このような革新性もあり、世界各国との絆も強固なものでした。

1893年、公安委員会として知られるネイティブハワイアン以外の臣民と外国人グループがハワイ王国の転覆をはかり、リリウオカラニ女王の王権を剥奪します。武装した公安委員会の民兵が臣民に危害を加えるのを避けるため、外交を利用した統治権の奪回計画を練りながら女王は王位を退きました。

女王の生存中に王政復古はなりませんでした。ネイティブハワイアンによる民族自決権取得運動は今日も続いています。統治権復活を支持する人々はハワイが米国に統合された経緯を合法とせず、自分たちをハワイ王国民と考えている人もいます。米国政府との関係をアメリカ先住民、アラスカ先住民との関係に近いものにすべきだと主張する人々もいます。ネイティブハワイアンの民族自決権と統治権問題はとても複雑で、多くのネイティブハワイアンにとって非常に繊細な話題であることにご留意ください。

ハワイの王宮

独立王国だったハワイには、米国本土にはない宮殿が3つ現存しています。これらの宮殿はハワイでも特に歴史的価値の高い博物館です。人々が敬愛したアリイ (ali‘i 首長) やモオイイ (mō‘ī 国王) の住居でもあった宮殿は、ワヒ・パナ (wahi pana 神聖かつ重要な文化に織り込まれた場所) であり、その所蔵品は当時の重要なできごとの数々を物語っています。



イオラニ宮殿 (‘IOLANI PALACE)

オアフ島ホノルルにあるイオラニ宮殿は1874年から1893年まで続いたハワイを統治したカラカウア王の宮殿を修復保存した建物です。ハワイを17年間統治した国王デビッド・カラカウア (David Kalākaua) が1882年に建立した宮殿は、ハワイの文明的君主と主権の象徴でした。デビッド・カラカウア国王の妹で後継者となったリリウオカラニ女王 (Lili‘uokalani) は2年の統治後の1893年1月17日、暫定政府により余儀なく退位しました。

今日、宮殿を訪れる人はハワイ王国終焉の時代に足を踏み入れ、修復されて在りし日の壮麗さを取り戻した古い部屋をめぐり、王家の宝玉が並ぶギャラリーを見学することができます。

イオラニ宮殿は「フレンズ・オブ・イオラニ・パレス」によって運営されています。ガイドによるツアー、複数言語によるオーディオツアーの他、ガイドなしのギャラリー見学も可能です。

お問い合わせは (808) 522-0822
またはこちらから。 iolanipalace.org



ハーナイアカマラマ (HĀNAIAKAMALAMA) クイーン・エマ・サマー・パレス (Queen Emma Summer Palace)

オアフ島の歴史深いヌアヌヌ谷 (Nu‘uanu Valley) にあるハナイアカマラマ (南十字星にちなんだ名前) では、過ぎ去りし時代が今も息づいています。エマ女王の夏の宮殿としても知られるハナイアカマラマは19世紀なかば、エマ女王がホノルルでの過酷な宮廷生活から逃れるために利用した離宮です。女王とその一行はここヌアヌヌで夫カメハメハ4世や幼い息子アルバート・エドワード・カウイケアオウリ王子 (Albert Edward Kūikeyaouli) と幸せな時間を過ごしました。

ハナイアカマラマはハワイでは残り少ないギリシャ復興様式の建物です。木材はポストンで切り出され、1848年にホーン岬経由でハワイに輸送されました。政府との数度にわたる協議の末、ハナイアカマラマとその敷地はドーターズ・オブ・ハワイが管理しています。

お問い合わせは (808) 595-3167
またはこちらから。

queenemmasummerpalace.org



フリヘエ宮殿 (HULIHE‘E PALACE)

1838年に建立され、ハワイ島カイルア・コナのアリイ・ドライブ (Ali‘i Drive) に位置するフリヘエ宮殿は、ハワイ王族のお気に入りの別荘でした。現在は優美な家具や見事な美術工芸品があふれる博物館として運営されています。フリヘエ宮殿は、ハワイの3つの宮殿のなかで唯一、王室共有の別荘として使われていました。カメハメハ大王の曾孫娘ルス・ケエリコオラニ女王 (Ruth Ke‘elikōlani) は生涯のほとんどをこの宮殿で過ごしました。

1973年5月25日には米国国家歴史登録財に登録され、一世紀にわたって集められた財宝や美術品が所蔵されています。

フリヘエ宮殿はドーターズ・オブ・ハワイによって管理運営されています。ガイド付きのツアーは終日、ガイドなしの見学用パンフレットは英語、日本語、デンマーク語、ドイツ語で用意されています。

お問い合わせは (808) 329-1877
またはこちらから。

daughtersofhawaii.org/hulihee-palace/



リリオオカラニ (Lili‘uokalani)

在位1891年-1893年

リリオオカラニ女王は王座に就いたハワイ王国最後の君主です。君主の統治権を取り戻し、投票権を拡大することを盛り込んだ新憲法制定を試みましたが、そのために米国海兵隊の支援を受けた商人と宣教師の後裔により1893年、王権を剥奪されます。1917年の逝去にあたり、ネイティブハワイアンの子どもたちに資産を遺しました。世界的に知られた曲「アロハ・オエ (Aloha ‘Oe)」の作者としても有名で、自身の兄弟やハワイの多くのアリイ (ali‘i 首長/王族) 同様にすぐれた音楽家・作曲家でもありました。幽閑中に自叙伝「ハワイの女王が語るハワイの物語」を書き残しています。女王が暮らしたワシントン・プレイスはハワイ州知事の官邸であり、現在は博物館になっています。



カラカウア (Kalākaua)

在位1874年-1891年

チャールズ・ルナリロ国王 (Charles Lunaliilo) の死後、議会はデビッド・カラカウアを次の国王に選定しました。デビッド・カラカウア国王の時代は社会的変革と不穏な空気に満ちていました。国際的国家としてハワイの立場を確立するために外交条約を固め、米国との互恵条約の締結を含めて国際貿易の拡大を図る目的で、デビッド・カラカウア国王はハワイ君主として初めて世界を旅しました。旅の途中でトーマス・エディソンとの知遇を得て、後にホワイトハウスやバッキンガム宮殿にも先駆けてイオラニ宮殿を電化しました。国際的な視野を持ち、フラをはじめ、ハワイの芸術の復興にも尽力しました。



ルナリロ (Lunalilo)

在位1873年-1874年

カメハメハ王朝が終焉を迎えましたが、後継者が指名されていなかったため、憲法により議会在が次の君主を選定しました。1873年、ウィリアム・チャールズ・ルナリロ (William Charles Lunalilo) が国王となりますが在位期間は短く、在位後わずか13ヶ月で逝去してしまいます。死後、その資産はネイティブハワイアンの高齢者のための施設「ルナリロ・ホーム (Lunalilo Home)」設立のために託されました。ヌアヌ (Nu‘uanu) にある王室霊廟 (マウナアラ Mauna‘ala) に埋葬されなかった王族はルナリロ国王とカメハメハ大王だけです。そのかわりにルナリロ国王はカワイアハオ教会 (Kawaiiaha‘o Church) の墓地で臣民とともに眠っています。

1776年
米国独立宣言

1778年
英国の探検家キャプテン・ジェームス・クック一行初めてハワイに上陸

1778年以前
ハワイの土地と人民は首長が管理し、各島は独自に支配されていた

1778年
米国憲法承認

1790年
カメハメハ大王マウイ島イアオ (Īao) にてマウイ島、モロカイ島、ラナイ島を統一

1794年
カメハメハ大王軍による保護と引き換えにハワイ諸島を大英帝国に譲渡するも英国議会は承認せず

1935年
太平洋横断する民間機が初めてハワイに寄港

1939年
ヨーロッパで第二次世界大戦が勃発

1929年
米国株式市場が暴落大恐慌はじまる

1941年
真珠湾攻撃を受け、米国が第二次世界大戦に参戦

1921年
ハーディング大統領ハワイアン・ホームズ・コミッション法に署名

1945年
第二次世界大戦終戦

1887年
ホワイトハウスに先駆け、イオラニ宮殿がハワイ初の建造物として電化される

1914年
第一次世界大戦勃発

1882年
ホノルルにイオラニ宮殿 (Tolani) 完成

1900年
ハワイが米国に併合され、正式に準州化

1881年
デビッド・カラカウア国王が首長として初めて世界一周旅行に。ニューヨークでトーマス・エディソンと出会う

1919年
ハーディング大統領ハワイアン・ホームズ・コミッション法に署名

1875年
デビッド・カラカウア国王ハワイ王国と米国間の貿易を無税とする互恵条約に署名

1929年
米国株式市場が暴落大恐慌はじまる

1820年
捕鯨基地として知られるラハイナ (Lahaina (表記と発音は数種あり)) がハワイ王国の首都に指定。キリスト教の宣教師がカイルアコナ (Kailua-Kona) に到着

1959年
ハワイが米国50番目の州として承認

1810年
カメハメハ大王カウムアリイ (Kaumuali‘i) にカウアイ島を譲渡される。ハワイ全島の統一

1963年
ケネディ大統領暗殺

1795年
カメハメハ大王外国人から得た近代武器を使い、オアフ島ヌアヌ (Nu‘uanu) の戦いで勝利

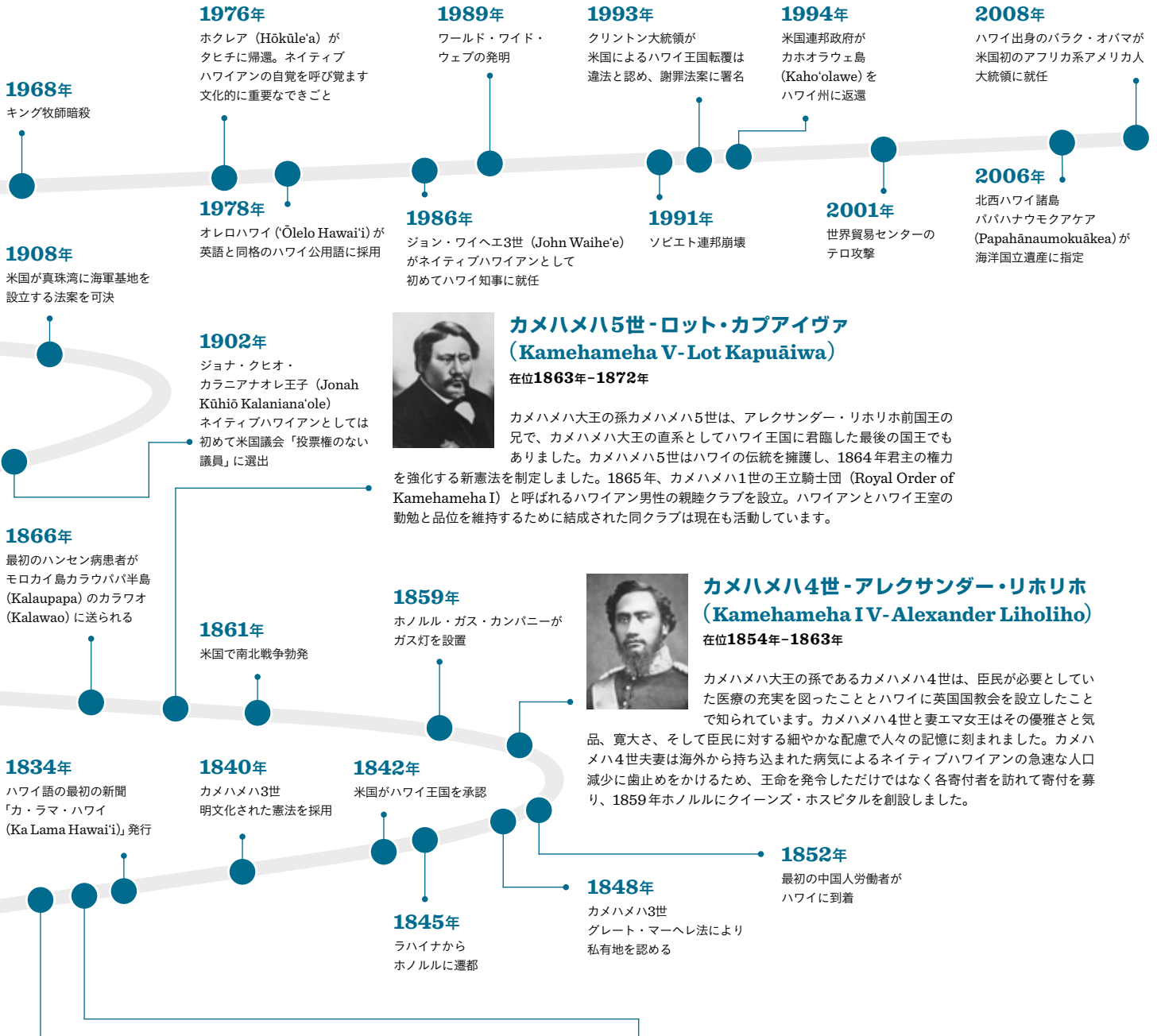
1947年
米ソ間の冷戦開始



カメハメハ1世 (大王) - パイエア (Kamehameha I - Pai‘ea)

在位1810年-1819年

カメハメハ王国最初の支配者で、幼名パイエア。若き首長としてコハラ (Kohala) で育ち、伝統的な兵法を学びました。1810年、ハワイ諸島の支配を巡って他の首長たちと20年近い戦闘の末にカウムアリイ (Kaumuali‘i) にカウアイ島を譲られ、すべてのライバルを打ち破るという予言どおりハワイ諸島を統一してその支配者となりました。



カメハメハ2世 - リホリホ (Kamehameha II - Liholiho)
在位1819年-1824年

カメハメハ大王の長男であるカメハメハ2世は、男女が食事をともにしてはいけないという従来の戒律を破って神の力を試し、政敵となる可能性もあった神殿も閉鎖しました。在位期間は短かったものの、この時代には捕鯨産業が夜明けを迎え、米国から初めて宣教師たちがやってきました。1820年はマウイ島ラハイナ (Lahaina 表記と発音は数通りあり) がハワイ王国の首都となります。1824年、英国のジョージ4世国王を表敬訪問したカメハメハ2世と妻カマーマル (Kamāmalu) は麻疹に罹り、この世を去ります。

カメハメハ3世 - カウイケアオウリ (Kamehameha III - Kamehameha III)
在位1825年-1854年

カメハメハ3世は兄リホリホの死により、わずか10歳で即位。この時代は伝統的な考え方の多くが西洋の概念にとって代わられました。1840年、カメハメハ3世は明文化された初の憲法を制定します。これにより土地の概念が、共有財産として地域社会で管理するものから、西洋的に個人が所有するものへと変わりました。この土地分配はグレート・マーヘレ法 (Great Māhele) として知られています。カウイケアオウリ王は識字率アップにも力を入れました。その統治時代、初のオレロ・ハワイ ('ōlelo Hawai'i ハワイ語) 新聞が印刷され、ハワイ王国は世界で最も識字率の高い国のひとつになりました。



写真：IHVB/LEHUA WAIPA AHNEE



写真：IHVB/LEHUA WAIPA AHNEE

メリー・モナーク・フェスティバル (Merrie Monarch Festival)

メリー・モナーク・フェスティバルは、伝統芸能を支援し、ハワイの言葉と舞踏が末永く続くことを奨励したデビッド・カラカウア国王 (David Kalākaua) を記念する祭典です。17年間にわたるカラカウア国王の統治時代は、ハワイ文化や音楽が復興し、宣教師の不興を買いながらも数多くのフラのパフォーマンスが行われました。この祭典は、音楽や踊りを愛し、「メリー・モナーク (陽気な国王)」のニックネームで親しまれたデビッド・カラカウア国王を記念して開催されます。

復活祭の次の週、ハワイ島ヒロでの開催中は、フラや音楽のパフォーマンス、クラフトフェア、アートショー、そしてヒロの街を練り歩くロイヤルパレードが催されます。毎年3夜にわたってイディス・カナカオレ・スタジアム (Edith Kanaka'ole Stadium) で開催される恒例のフラ・コンテストで、祭典は最高潮に達します。木曜日の夜に行われる〈ミス・アロハ・フラ〉は単独のワヒネ (wāhine 女性) による競技で、フラ・カヒコ (hula kahiko 伝統的フラ) とフラ・アウアナ (hula 'auana 現代フラ) のパフォーマンスを競います。金曜日はカネ (kāne 男性) とワヒネのグループによるフラ・カヒコ、土曜日はフラ・アウアナの競技が行われます。大人気の入場券には限りがあります。ウェブサイトでは生配信、あるいは会期中のテレビ放送で観戦が楽しめます。

詳しくはこちらから。 merriemonarch.com



写真：HTA/KAZU TANABE



写真：IHVB/NANCY ERGER

キング・カメハメハ・セレブレーション (King Kamehameha Celebration)

ハワイで最も名高い英雄、戦士、そして政治家であったカメハメハ大王を記念した祝典は、1872年に初めて催されました。カメハメハ5世が1872年、6月11日をハワイ王国の祝日と制定したのです。カメハメハ大王の正確な誕生日が不明なため、任意に選ばれた6月11日が毎年州の祭日として祝われています。

今日、この由緒ある祝典のためにハワイ各島で何百人ものボランティアが協力して準備に取り組み、祝典に参加しています。ワシントンD.C.にあるものも含め、ハワイ州各地にあるカメハメハ大王の銅像は麗々しくレイで飾られます。

見事な花で装飾された山車や気品あふれるパウ・ライダー (pā'ū riders 近代ハワイの伝統的な私設騎馬隊)、煌びやかな車両、地域のクラブや団体、にぎやかな楽隊によるフローラル・パレードがハワイ州各地の決められたルートを進みます。

詳しくはこちらから。 sfca.hawaii.gov/resources/king-kamehameha-celebration-commission/

プリンス・ロット・フラ・フェスティバル (Prince Lot Hula Festival)

プリンス・ロット・フラ・フェスティバルは、のちにカメハメハ5世に即位したロット・カプアアイヴァ王子 (Lot Kapuāiwa) を記念して開催されます。王子の後援がなければモアナラで行われるこのフラの伝統は途絶えていたかもしれません。

モアナラ・ガーデンズ財団により40年以上前に設立されたプリンス・ロット・フラ・フェスティバルでは、ハワイ各地のハラウ・フラ (hālau hula フラ教室) が一同に会し、オアフ島の緑豊かなモアナラガーデンの歴史ある屋外のパ・フラ (pā hula フラの舞台) でパフォーマンスを披露していました。



写真提供：Moanalua Garrdens Foundation

同フェスティバルは競技会ではないフラの祭典としてはハワイ州最大規模で、現在はホノルル市ダウンタウンのイオラニ宮殿 (Iolani) に会場を移しました。毎年7月に2日間開催されるこのイベントは、フラ・カヒコ (hula kahiko) とフラ・アウアナ (hula 'auana) のパフォーマンスに加え、文化プログラムや展示、アクティビティが催され、訪問者と住民合わせて約11,000人が参加します。

詳しくはこちらから。 moanalugardensfoundation.org



写真：HTA/TOR JOHNSON

アロハ・フェスティバル (Aloha Festivals)

1946年、「アロハ・ウィーク」としてはじまったハワイのアロハ・フェスティバルは、世界で最も古いハワイの文化的祭典のひとつです。その使命は、アートや音楽、ダンスや食べものを通してハワイの歴史文化を賛美することによりアロハ・スピリットを育むことです。毎年9月にオアフ島で開催される同フェスティバルでは、王室の任命式、開会式、フローラル・パレード、ホオラウレア (Ho'olaule'a 大きな祝賀会) など特徴ある様々なイベントで多様性に満ちたハワイ独特の習慣を取り上げます。

王室はワイキキのロイヤル・ハワイアン・センターが建つ、かつて多くのアリエ (ali'i 首長) の住居があったヘルモアの地でお目見えます。豪華なフローラル・パレードでは美しい山車、フラ、楽隊、そしてハワイの8つの主要な島を代表するパウ・ライダーたちが行進します。アロハ・フェスティバルならではのもうひとつのイベントがホオラウレアです。ハワイでもトップクラスのエンターテイナーやハラウ・フラが集い、ハワイの郷土料理やアート、レイを売るブースが並びます。

詳しくはこちらから。 alohafestivals.com

1959年、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師はハワイ州議会でこう呼びかけました。「この国の他の地域ではなかなか実現できずにいる人種的調和と人種的公平をすでに実現している（ハワイの）皆さんをお手本とし、発想の源としています」。

ネイティブハワイアン伝統と移民たちの慣習が世代を重ねて発展し、ハワイならではの風習になりました。ハワイはしばしば「文化のるつぼ」と呼ばれています。

この章ではハワイならではの風習や習慣を紹介し、ハワイに起源を持つもの、持たないものを明記しています。

アロハ・アイナ (Aloha 'Āina)

意味は「土地への愛情」です。カマアイナ (kama'āina) は、オパラ (ōpala ごみ) をきちんと処理して再利用したり、ワヒ・パナ (wahi pana 神聖な場所や文化的に重要かつ大切な意味を持つ場所) を大切にしたり、野生動物や固有の生態系を損なわないように気をつけたり、社会活動に参加するなどしてアロハ・アイナの精神を実践しています。

〈自然資源〉の章もご参照ください。

アロハ・フライデー

ハワイでは金曜日にアロハ・アタイアと呼ばれる服装を着て、レイを人に贈ったり身につけたりする習慣があります。週末が待ち遠しいという気持ちを込めてハワイの住民がなごやかに交わす挨拶が「ハッピー・アロハ・フライデー！」です。

ハワイのビジネス習慣

人と人が深い繋がりを大切にする小さな社会のハワイでは、ビジネスは人間関係の上に築かれています。そのため、いきなり仕事の話に入るのではなく、まずはお互いをよく知るために一緒に過ごす時間を持つのが一般的です。集まりに出席するとき、自分の町や州、国の食べものを持参する習慣もあります。ビジネスの席でのアロハ・アタイア着用も一般的です。世界の他の国や都市ではスーツにネクタイがビジネスマナーですが、ハワイではアロハシャツがそれにあたります。



方角

「ローカル」の用語で方角を示すとき、東西南北という基本の言葉は使いません。方角は目印となる建物や景色をもとに表します。例えばマウカ (ma uka 山側) とマカイ (ma kai 海側) がハワイでは一般的に使われています。

集まり

仲間や家族と集い、食事を共にするのはハワイの伝統です。ハワイローカルの文化は、集まって食べものを分かち合い、音楽と共に祝うことを中心にまわっています。ベイビー・ルアウ (baby lū'au 子供の1歳の誕生日のお祝い)、記念日、卒業、誕生日、結婚、祝日、訪問客の到来時だけでなく、普通の日や週末でもハワイの人々は集まって祝います。

手みやげ

手みやげはハワイ語でマカナ (makana) と言います。家やオフィスに招かれたら、感謝の印として訪問者の住む町のもの、あるいは何か意味のあるちょっとした土産物を持参するのが習わしです。食物の場合が多いですが、食物である必要はありません。

挨拶

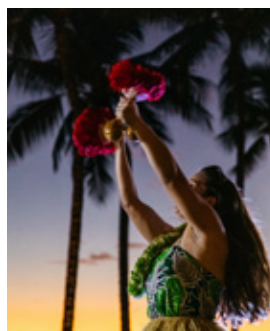
性別に関わらず、伝統的なハワイの挨拶はホニ (honi) と呼ばれます。抱き合って鼻をこすり合い、生命の息吹ハア (hā) を分かち合い、親しみを伝えます。ホニはポリネシアの他の文化でも見られる習慣です。より現代的な挨拶は頬にキスをして「アロハ」と声をかけ、抱擁を交わします。握手をしてから抱擁を交わすのも、とくに男性同士で交わされることの多い現代的な挨拶です。



ハナイ (Hānai)

ハワイ語でハナイは養子縁組をした家族のこと。ハワイの人々にとって親戚、あるいはオハナ (‘ohana 家族) は大勢いるのが一般的で、血の繋がりが無い相手も家族のように扱います。子供やローカルの人々は親戚ではない人も親しみを込めて「アンティ」「アングル」と呼びます。そのように呼ばれたら一目置かれたということ。敬意の現れでもあります。

フラ (Hula)



フラはハワイの伝統舞踊です。フラのチャント (詠唱) や歌はハワイの歴史や文化を伝え、踊りはハワイの伝説や事件、王たちの偉業、自然の美しさや愛を描写しています。

フラ・カヒコ (Hula kahiko) は一般的に伝統的なフラで、フラ・アウアナ (hula ‘auana) は現代的なフラを指します。しかし、この区別の仕方は2つのフラの違いを軽視し、大事な点を見落としています。フラ・カヒコは儀式の一部または延長として披露される踊りです。

フラ・カヒコはイプ (ipu ひょうたんの太鼓) やパフ (pahu 丸太を削り出して空洞をつくり、伝統的には鮫の皮を貼ってつくる太鼓のような打楽器) の伴奏によるオリ (oli 詠唱) に合わせて踊ります。フラ・カヒコと一緒に耳にするオリの多くは遠い昔に生まれたものですが、古いスタイルでつくられた新しいオリもあります。こうした現代のオリに合わせて踊るフラもまた特徴から見ればフラ・カヒコなのです。

一方フラ・アウアナはフォーマルなものではなく、儀式とは関係なく踊られます。20世紀に入る頃、伝統的フラがフォーマルではないスタイルへと進化しました。フラ・アウアナのダンサーたちは観客ともっと密に交流します。物語はときにはフォルセットも用いた歌で語られ、ギターやベース、スティールギター、ウクレレなど弦楽器の伴奏がつかます。

カマアイナ (Kama'āina)

カマアイナはローカルのあいだで「住民」の意味で使われることの多い言葉です。直訳は「土地の子供」で、本来はネイティブハワイアンの子孫を指す言葉でした。今日では、ハワイで生まれたか、長くハワイで暮らしている住民を指します。「土地の養子」というわけです。ときには、ワイキキ (Waikīkī) のカマアイナ、マウイのカマアイナというように、特定の場所との結びつきを含めて使われることもあります。

コクア (Kōkua)

ハワイの文化では、見返りは期待せずに人を助けるのが習わしでした。ハワイ語から派生し、今日も実践されているのがコクアの精神で、個人よりも社会全体を考えることから生まれる深い思いやりの心を意味しています。

レイ

ハワイに到着した人はもちろん、ハワイを去る人との別れの時も花のレイを贈るのは適切な挨拶の習慣です。芳しい花の輪レイは、ハワイの象徴として世界的に知られています。ハワイ産の新鮮な花でつくるのが一般的で、首にかけたり、頭にのせたりします。

ハワイではレイは日常的なもので、祝祭時や卒業式、結婚式、パーティーだけでなく、様々な機会に頻繁に贈られます。伝統的な儀式で用いるときはステイタスシンボルともみなされます。妊娠中の女性に輪がつながったレイを贈らない風習もあるので、こうした場合、稀にレイを贈ろうとして止められることもあります。

レイを贈られたら大切に扱いましょう。レイをはずすときも、ごみ箱に捨てたり床に置いたりせず、飾って楽しみましょう。



メレ (Mele)



ハワイには代々受け継がれた豊かな音楽文化があります。伝統的な音楽も、それぞれの文化や習慣とともにハワイに到来した移民たちから派生したローカルの音楽も、諸外国からの影響を受けています。ハワイには確固たる口承文化の歴史

があり、複雑に込み入った歌や詠唱、踊りを通して多くの物語が受け継がれてきました。ハワイアンは故郷や愛する人々、神位の高いアリエイ (ali'i 首長や王族) など人物についての歌をよくつくります。実際、数多くの曲を残したアリエイもいます。現代でもローカルの人々、とくに音楽的な才能にあふれるハワイアンは、集いの場では人前で歌い、踊ります。会がお開きになる頃には全員で合唱となることも珍しくありません。ハワイの音楽だけを流すラジオ局もあります。

パウ・ハナ (Pau Hana)

パウ・ハナとはピジンの言い回しで「仕事が終わる」という意味です。ハワイ語の単語パウ (pau 終わり) とハナ (hana 仕事) が組み合わさって生まれました。ハワイには一日の仕事のあとに同僚や友達と一杯飲む習慣があります。こうした集まりもやはりパウ・ハナと呼ばれます。



キルト

キルトはハワイ語でカパ・クイキ (kapa kuiki) と呼ばれます。ハワイにおけるキルトが最初に記録に登場するのは1820年、宣教師たちがハワイに到来した年でした。クリエイティブかつ革新的なハワイの人々はすぐに自分たちの伝統文化を反映したスタイルを築き、独自のハワイアン・キルトが誕生しました。ハワイアン・キルトの絵柄は伝統的に自然のなかにあるものが使われています。

家に入るとき靴を脱ぐ

日本と同じように靴を脱ぐ習慣は、ハワイや他のポリネシアの島々の習慣でもあります。靴を脱がずに人の家に入るのは失礼とされています。ハラウ・フラ (hālau hula フラ教室) のように礼儀作法が求められる場所も同じです。

トーク・ストーリー

友人や親戚など親しい人にその日のできごとを伝えたり、興味のあることがらについて話し合ったりするときに使われるピジンの言い回しです。友人や家族と一緒に過ごすひときは、関係を認め、強化し、お互いへの信頼と敬意を温める機会です。ローカルの人々は、人とともに過ごし、おしゃべりを楽しんで絆を温め直す「トーク・ストーリー」を大切にしています。



古代ハワイの風習

プロモーションのコピーなどで文化的な習慣を「古代の」と表現しているのが見受けられますが、「古代」という言葉は、今はもうその習慣が行われていない印象を与えてしまいます。現在も継承されている文化的習慣は、文化的遺産と描写するほうが適切です。「古代」の代わりに「歴史的」、「伝統的」といった言葉を使用してください。

アウマクア (‘Aumākua)

ネイティブハワイアンは動物や自然の現象を家族の守り神と考えました。アウマクアとしてよく知られるモオ (mo‘o とかげ) やプエオ (pueo ハワイフクロウ)、マノ (manō サメ) などの動物は大切にしてください。

文化専門家

文化専門家や職人は、実践と学習を重ねて技術や専門知識を磨いてきた人々です。時間とエネルギーを費やし、自己犠牲を払い、生涯をかけて得る文化的知識を深めてきました。プロモーションなどでハワイの文化専門家やエンターテイナーと仕事をする時は、専門家やプロに対する敬意を払うのはもちろん、プロの仕事に見合った報酬を考慮してください。

文化的名所と景観

ネイティブハワイアンにとって、ハワイのすべての景色には文化的な意味があります。創造に関わる出来事に関連した場所もあれば貴重な草花を集める場所、狩りや魚を採る場所、儀式宗教的な風習にまつわる場所もあります。そうした背景の説明なしに文化的名所を紹介したり、文化的かつ歴史的な意味の説明なしに写真が公開される例がよくありますが、景色の特徴を強調したり、文化的名所や景色を含んだマークや資料を作成するときは、適切な表現の仕方をHTAにお問い合わせください。



ナウパカ (naupaka) 絶滅危惧種

植物と動物

広大な太平洋の真ん中に位置するハワイには、通常よりはるかに高い割合で在来種が存在します。在来種のなかには、人の介在なくハワイにたどり着きながら、地球各地の似たような天候の場所で生育が確認されているものもあります。ハワイで進化し、他では見られない固有種のなかには、絶滅の危機に瀕している種もあります。ハワイが東西の文化と接して2世紀以上。このあいだに様々な動植物が意図的に、あるいは意図せずしてハワイに持ち込まれました。伝説や歌に顕著のように、植物の名前は子供の名前にもよく使われます。また、植物柄の生地を使った衣服は「アロハ・アタイア」と呼ばれて親しまれ、新鮮な花を髪に飾るのもよく見かける習慣です。ハワイのプロモーションのなかで、熱帯の他の地域の動植物がハワイのものとして誤って紹介されることがよくあります。ハワイを紹介するときは、ハワイ在来の動植物を使ってください。ハワイの在来種、固有種の多くは今、絶滅の危機に瀕しています。森林をむやみに踏み荒らさず、動植物は距離を保って観察するなど、節度ある行動を心がけましょう。生息地で休息する動物には近づかないようにしてください。

ハオレ (Haole)

ハオレとはハワイではない土地に起源を持つ人のことです。かつては海外から来た人やものすべてを意味しましたが、現代ではおもに白人という意味で使われています。ハオレは使い方に気をつけるべき言葉ですが、差別用語ではありません。

ハワイ・リージョナル・キュージーヌ

ハワイ・リージョナル・キュージーヌはハワイ独特の創作料理のこと。美食の地としてのハワイの名声を高めるため、1990年代初頭に一部のローカルシェフたちが奮起したのがはじまりです。ハワイ産の魚、野菜、食品をハワイ各地で見られるエスニックな料理と調理法を融合させたハワイ・リージョナル・キュージーヌは、伝統的なハワイ料理とは別のものです。



ハワイの食物

西洋諸国との接触以前は25万から100万の人口を支えた伝統的なハワイの食事は、シンプルで味わい深く持続可能なものでした。主食となるのはカロ (kalo タロ芋) で、つぶしてポイ (poi) として食するのが一般的でした。伝説によれば、カロの起源はハワイの神パパ (Papa) とワケア (Wākea) の死産で生まれた子供ハロアナカラウカパリリ (Hāloanakalaukapalili) から育ったものとされています。ハロアナカラウカパリリの弟ハロア (Hāloa) がハワイの人々の祖先です。ネイティブハワイアンは家族の繋がりを感じ、兄を敬うように食物を大切にしてきました。

その他の主食はウアラ (‘uala サツマイモ)、ウル (‘ulu ブレッドフルーツ・パンの実) やマイア (mai‘a バナナ) です。海からは様々な魚も採れましたし、巧みに造られ、注意深く管理されたロコイア (loko i‘a 養殖池) のおかげで供給も安定していました。伝統的なハワイの食事に欠かせなかったこうした食材は、今もハワイ各地のレシピやメニューに登場しています。最初のカロとハワイアンとの家系的な結びつきを持つポイはとくに大切な食材として重視され、年配者の滋養になると考えられています。「壁紙に使う糊のよう」などとポイを否定的に表現するのはとても失礼な行為です。

ハワイモンクアザラシ

イリオホロイカウアウア (‘ilīoholoikauaua) と呼ばれるハワイモンクアザラシ (学名 *Neomonachus schauinslandi*) はハワイの固有種で、現在残っているのはおよそ1,400頭。世界で最も深刻な絶滅危惧種の一種で、絶滅危惧種保護法 (ESA) と海洋哺乳動物保護法 (MMPA) およびハワイ州の法律によって保護されています。ハワイモンクアザラシに触れたり危害を加えたりするのは違反で、禁錮5年の罰則および5万ドルの罰金が課せられる場合もあります。少なくとも50フィート (約15メートル)、子を連れた母アザラシからは少なくとも150フィート (約45メートル) 離れるようにご案内ください。(米国連邦規則50編1章B節17款B目17.11条)



イリオホロイカウアウア (‘ilīoholoikauaua) 絶滅危惧種

在来動物の近くでは 節度ある行動を

- 法律が指定する距離をたもってください。
多くの在来種は絶滅の危機に瀕し、ハワイ州、米国、あるいは国際的に保護されています。
- 紹介する際に、動物に触れていたり、近づきすぎたりする人の写真は使用しないでください。
- 通称や英語の名前を使う前に、
ハワイ語の名前を使ってください。
- 在来動物に餌をやったり、邪魔したり、手を出したり、
危害を加えたりしないでください。
人間との共存のために、彼らは距離を必要としています。
- 在来動物が生息する場所を紹介しないでください。

ハワイの海洋保護種について詳しくはこちらから。

fisheries.noaa.gov/pacific-islands/endangered-species-conservation/marine-protected-species-hawaiian-islands

詳細情報ははこちらから。

[rapidohiadeath.org
nps.gov/havo/learn/nature/rapid-ohia-death.htm](https://rapidohiadeath.org/nps.gov/havo/learn/nature/rapid-ohia-death.htm)

ヘイアウ (Heiau)

神殿あるいは礼拝の場であるヘイアウは、ハワイ文化では非常に神聖な場所です。約1メートル四方の石の壇から数十メートルにわたって様々な構造物がある複雑なものまで、形や大きさは様々です。簡単には近づけない場所にあるものも、人が大勢いる街中にあるものもありますが、すべてがヘイアウと表示されているわけではありません。すべての構造物は大切に扱ってください。神聖な場所であるため、大勢で訪れることや、ソーシャルメディアなどで場所を公開するのは控えてください。石を動かすこと、構造物を損傷させる行為も避けてください。



知られざるハワイ

人が立ち入らない「知られざる」場所が公開されることがありますが、こうした場所の多くは文化的に神聖だったり、危険な場所や私有地にあたりします。こうした場所のプロモーションは避けましょう。現在、観光名所としてプロモーションされていない場所を紹介するときは事前にハワイ州観光局にお問い合わせください。

フラ

物語性に満ちたハワイの踊りフラは、ネイティブハワイアン伝来の知識の基盤と踊り手とを結びつけます。歴史や家系、予言や先祖にまつわる物語に命を与え、いきいきとよみがえらせるのです。



本格的なフラの実践には、例えば、装飾に使うシダやマイリ（レイに使われる香りのいい蕨）が育つ森を思いやる心など環境の保護も含まれています。これは踊り手と踊り手が表現する物語、そしてフラそのものの伝説的な起源がひとつになる好例といえるでしょう。

他のポリネシア文化の踊りや風変わりなフラ風のアクティビティの写真が使われ、フラが間違っって紹介されることがよくあります。このページの写真はフラを正しく伝える一例です。お使いになる写真が正統かつ正確なフラの写真かどうかHTAに確認してください。

しゃれや言葉遊び

「アロハといえばすてきなティーショット」、「カマアイナ (kama‘āina) といえばディスカウント」など、ハワイ語の言葉やハワイの価値観をユーモラスな言葉遊びに使うのは避けましょう。

インターアイランド (Interisland)

インターアイランドの正確な英語表記は「Interisland」です。区切らずにひとつの単語として使います。インターアイランドはハワイ諸島の6つの主要な島間を行き来するときに使う言葉です。この章の〈ネイバー・アイランドとアウトター・アイランド〉の項をご参照ください。

カフナ (Kahuna)

カフナはハワイの司祭、またはその人の専門分野で非常に高く尊敬される人のことです。カフナは長年の訓練と実践を経た専門家だけに与えられる尊称で、冗談まじりに気軽に使う言葉ではありません。「ビッグ・カフナ」などはもってのほかです。「カフナ (Kahuna)」は単数形、「カーフナ (kāhuna)」が複数形です。〈ハワイの言葉〉の章もご参照ください。

カナカ・マオリとカナカ・オイヴィ (Kānaka Maoli & Kānaka ‘Ōiwi)

〈ネイティブハワイアン〉の項をご参照ください。



キイ (Ki‘i)

キイとはハワイ語で絵画や像のことです。ティキ (tiki ポリネシアの他の土地の言葉) あるいは偶像と間違っ呼ばれることが多いのですが、キイはハワイの神々、祖先、あるいは家族の守り神のことで、ネイティブハワイアンの信仰のなかで非常に重要な意味を持ちます。この上なく神聖とみなされ、最大限の敬意をもって扱われるキイですが、しばしば無配慮に漫画的に描写されます。ハワイ島のプウホヌア・オ・ホオナウアナウ (Pu ‘uhonua O Hōnauanau) のように実際にキイがある神聖な文化名所の写真でもないかぎり、キイを観光促進に使うのは控えてください。



レイ

Leiは複数形も lei で leis ではありません。プロモーションのイベントやプログラムで使うときは、生花や自然の素材など、できるかぎりハワイで集めた新鮮な材料でつくったレイをお使いください。人気もあり、値段も手頃で簡単に手に入りますが、ハワイで販売されるレイの多くは輸入された材料でつくられています。紫と白のオーキッドのレイはその最たるものでしょう。輸入材料でつくられたレイや人工素材のレイの使用や写真の使用は控えてください。絶滅の危機に瀕している植物や、オヒア (‘ōhi‘a) の木やオヒアの花レフア (lehua) のように現在危機に瀕している植物を使ったレイの使用も控えてください。レイについては〈風習と習慣〉の章、ラビッド・オヒア・デス (Rapid ‘Ōhi‘a Death) については〈自然資源〉の章もご参照ください。

ロミロミ (Lomilomi)

ロミロミの正確な英語表記はLomilomi。区切らずひとつの単語です。ロミロミとは、マッサージも含めて精神と肉体の感覚を取り入れた伝統的なハワイの治療法です。ハワイで施術されるマッサージのすべてがロミロミではありません。

ルアウ (Lū‘au)

古代ハワイではカプ (kapu 規則) により公的な場所で男女一緒に食事をするできませんでした。西洋人が到来して食事のルールも変わり、男女と一緒に食卓に座るのが一般的になりました。現代のルアウ (コミュニティの祝宴) やフキラウ (hukilau 網で包囲する漁法) の歴史をたどると、1940年代から1950年代にかけてポリネシア・カルチャー・センター (オアフ島) やスミス・ファミリー・ルアウ (カウアイ島) で初期の訪問者向けのモダンなルアウとして商品化されていました。

ローカルの人々のあいだでもルアウは乳児の1歳の誕生日や卒業など人生の大きな節目を祝う現代の習慣です。訪問者向けのルアウも大まかにはこうしたローカルの人々の習慣を基本としています。

ハワイをはじめとするポリネシア文化を強調したルアウは、訪問者が伝統料理に触れる機会でもあります。



訪問者向けのルアウには伝統料理もありますが、多くの料理は他の文化から持ち込まれ、ハワイに合うように改良されたものです。ルアウで提供される料理の一部をご紹介します。

チキン・ロング・ライス

鶏は最初にハワイにたどり着いた航海者が持ち込んだものですが、ロング・ライスはハワイのプランテーション時代に生まれた料理で、アジアの影響を受けています。

カルア・ピッグ (Kālua Pig)

地中のイム (imu 穴) で豚をまるごと調理したものです。

クロロ (Kūlolo)

つぶしたカロ (kalo タロ芋) と砂糖でつくる現代的なデザート。常温で食します。

ハウピア (Haupia)

ココナツミルクとコーンスターチ、水、砂糖でつくるモダンなハワイのデザート。ゼリー状で、冷やして食べます。

ロミ・サーモン (Lomi salmon)

さいの目に刻んだトマト、玉ねぎと塩漬の鮭でつくる料理です。鮭はハワイでは採れません。

ポイ (Poi)

最初の入植者が持ち込んだカロでつくる紫色のペースト状の食べ物。ポリネシアでも、この調理法でカロを食べるのはネイティブハワイアンだけです。

ポケ (Poke)

ルアウに欠かせない料理。サイコロ状に切った生の魚をソースで和えたものをポケと呼びます。ポケは魚のことだけを指すと思われがちですが、ハワイ語のポケはサイコロ状に切るという意味で、この切り方をした食物はすべてポケです。正しい発音は〈[連絡先と参考資料](#)〉の章に掲載された「ハワイ語発音ガイド」をご参照ください。

メインランド (Mainland)

ハワイでは米国本土を「メインランド」と呼びますが、この言葉はハワイが米国の他の49州に追従しているように聞こえるというカマアイナ (kama‘āina) もいます。「メインランド」のかわりに「米国大陸 (Continental U.S.)」という言葉が推奨します。

マウカとマカイ (Ma Uka and Ma Kai)

方角を示すとき、「マカイ」は海の方角、または海のほうにある場所のこと。「マウカ」は山の方角、または高台や内陸など、山のほうにある場所を示します。〈風習と習慣〉の章もご参照ください。

ネイティブハワイアン (Native Hawaiian)

ネイティブハワイアンとは、1778年に西洋文化との接触がはじまる前からハワイに住んでいた人々の子孫のことです。ハワイ語ではカナカ・マオリ (Kānaka Maoli) またはカナカ・オイヴィ (Kānaka ‘Ōiwi) という言葉が使われます。Native Hawaiian と表記するときはNとHを大文字に。Kānaka Maoli と Kānaka ‘Ōiwi の場合も同様です。

ネイバーアイランドとアウターアイランド (Neighbor Islands vs. Outer Islands)

オアフ島以外の島は、遠く人里離れているという意味を込めて「アウターアイランド (離島)」と呼ばれることがありますが、「ネイバーアイランド (隣島)」、または島名を使いましょう。

他のポリネシア文化

ハワイ文化と他のポリネシア文化を混同しないように注意してください。ポリネシアのショーなどを紹介する場合をのぞき、ハワイの描写にサモアの「シヴァ・アフィ (siva afi)」、または「アイラオ・アフィ (ailao afi 炎とナイフを使った踊り)」、タヒチアンダンスのひとつであるオテア (‘ōte‘a 伝統的なタヒチの踊り) など、他のポリネシア文化を象徴するものをハワイ文化として紹介するのは不適切です。紹介する内容と結びつかないポリネシア文化の写真を宣伝目的で使用するのは控えてください。同様に、ココナッツブラヤタヒチアンダンスの頭飾りもハワイのものではありません。〈フラ〉の項も参照ください。

ペトログリフ

ハワイ語ではキイ・ポハク (ki‘i pōhaku)。岩に刻まれたこの彫刻の多くは、美術館や個人のコレクションではなく、今も刻まれた場所に残る文化的遺産です。自然だけでなく人との接触にもさらされているため、侵食や損傷を受けやすいです。壊れやすいペトログリフに損傷を与えたり、写し取ったりする行為は控えてください。



神聖な場所

ネイティブハワイアンは土地に文化的な意味があると考え、最大限の敬意を払います。マウナケア (Maunakea) やハレマウマウ (Halema‘uma‘u) のように地理学的に傑出した特徴がある場所は文化的にも大きな意味を持ちます。訪問するときは文化的・歴史的名所、ワヒ・パナ (wahi pana 神聖かつ重要、または文化的に配慮したい場所) には敬意を払ってください。現在、観光地として奨励されていない場所を訪れるときは、事前にハワイ州観光局にお問い合わせください。

ティキ (Tiki)

〈キイ (Ki‘i)〉の項をご参照ください。

伝承

特定の伝説や口承による歴史を取り上げ、それがすべてのハワイの人にとっての真実であるかのような紹介が見受けられますが、ハワイの伝説にも地域や家庭、また場合によって、多様なバリエーションがあります。大きな違いがないこともありますが、時には出来事や起源がもとの物語と相反する場合があります。それだけが唯一の伝承であるかのような断定するのを避け、「伝承のなかには……」などと紹介するほうが適切です。

(例 「フラ発祥の地をモロカイ島とする伝承もあります」)

ワヒ・パナ (Wahi Pana)

〈神聖な場所〉の項をご参照ください。



ホエール・ウォッチング

ホエール・ウォッチングを紹介するときは、12月から5月にかけての季節限定のアクティビティであることを必ず明記してください。コホラ (koholā ザトウクジラ) をはじめ多くの種類は絶滅危惧種に指定されており、100ヤード (約90メートル) 以上近づかないように米国の法律で定められています。ホエール・ウォッチングを紹介する写真やビデオは、このページの写真のように見る人が定められた距離をとって見学しているものを使用してください。

責任ある映像の使用

訪問者が訪れることができない場所、危険な場所、不法に私有地を通らないと行かない場所の写真やビデオの使用は控えてください。

ハワイを紹介する時に使用可能な写真やビデオは、条件に合意する企業・団体にはHTAのナレッジバンク (Knowledge Bank) を通じて無料で貸し出しています。

詳しくはこちらから。 hawaii.barberstock.com

ハワイ語の地名

ハワイ語の地名は景観の特徴、天候や自然現象、伝承だけでなく近年の物語を踏まえ、深い考察の上でつけられています。その地名をつけた人、地名が伝える自然の力や物語への敬意を示しています。正式なハワイ語の地名を使うことは、その土地と歴史に対する敬意を表すことです。

ハワイにある場所の多くはそこにある建物や、近代になって割りあてられた役割で知られています。そうした名前がふさわしい場合もありますが、近代の建物や役割によってその土地の歴史が消失されるべきではありません。

その土地に英語の通称がある場合は、まずハワイ語の地名を使い、例えば「レアヒ (Lē‘ahi)、またの名をダイヤモンドヘッド」というように、英語の名前を追記してください。

その通称がハワイ語の名前の意味、あるいはその土地にまつわる伝説を伝えているか、あるいは長年使われているただの通称かを考慮してください。

HTAはハワイ語の地名についてはメアリー・カヴェナ・プクイ、サミュエル・エルバート、エスター・モオキニ共著の「ハワイの地名 (Place Names of Hawai‘i)」を基準にしています。(オンラインもあり)

詳しくはこちらから。 wehewehe.org

geoportal.hawaii.gov/datasets/HiStateGIS::gnis-geographic-names/

ハワイ地名委員会はハワイ州議会法令50条により、地名の使用や表記の統一を図るため1974年に設立されました。地名の表記法に関する疑問が上記「ハワイの地名」で解決しないときは、GNISのデータベースが最近承認された表記の資料として利用できます。本ツールキットの地名表記はこれらのガイドラインを基準としています。



ハワイ島

ハワイ島の正式名称はハワイ島です。「ハワイ」とだけ表記するのは、州全体ではなくハワイ島だけを表していることがはっきりわかる場合だけにしましょう。「ビッグ・アイランド」は英語の通称です。使わないようにしてください。

シティ・オブ・レフュージ (逃れの地)

正式名称はプウホヌア・オ・ホナウナウ (Pu‘uhonua O Hōnaunau)。ハワイ島にあるこの国立歴史公園は、古代ハワイでは避難地と考えられていた場所で、ヘイアウ (heiau 神殿) やキイ (ki‘i ハワイの神々や祖先、家族の守り神を表現する絵画や彫像)、ハワイの生活様式や文化を解説する展示があります。以前は国立公園局が、「シティ・オブ・レフュージ (逃れの地)」と呼んでいました。

ハワイ火山国立公園

ハワイ火山国立公園は面積およそ500平方マイル (およそ1,300平方キロ)、キラウエア (Kīlauea) とマウナロア (Maunaloa) のふたつの火山があります。公園全体を指していない場合は公園内のそれぞれの地名を明記してください。ハワイ火山国立公園は地理的にも生物学的にも非常に特殊で、人々に大切にされている景観を保護しています。海拔0フィートから13,680フィートまで、ハワイ火山国立公園は国際生物圏保護区ならびにユネスコ世界遺産にも認定されています。

レインボー・フォールズ (Rainbow Falls)

ハワイ島ヒロにあるレインボー・フォールズの正式名称はワイアヌエ (Waiānuenuē) で、「水に映る虹」を意味します。通称ではなく正式名称を使用してください。

ワイコロア (Waikoloa)

母音を強調して長く伸ばす長音記号カハコー (kahakō) をつけた誤表記がよく見受けられますが、コハラ地区 (Kohala) のワイコロアは「カモのいる池」という意味です。オアフ島のカハコーつきのワイコロア (Waikōloa) と混同しないようにしてください。



マウイ島

ハレアカラ (Haleakalā)

マウイ島にある Haleakalā の意味は「太陽の家」、最後の a の上にある kahakō なしで表記されがちです。死火山と紹介されることも多いですが、正しくは休火山で、活動は続いています。

ジョーズ (Jaws)

マウイ島ノースショアにある「ジョーズ」の正式名称はペアヒ (Pe‘ahi)。通称ではなく正式名称を使いましょう。大波が押し寄せるこのサーフスポットはプロサーファー向けで、冬期はつねに大きな波が押し寄せます。訪問者は離れた安全な場所から見物してください。

ラ・ペルース・ベイ (La Pérouse Bay)

マウイ島の6マイル続く美しいビーチの入り口。正式名称はケオネオイオ (Keone‘ō‘io) です。「ボーンフィッシュ (bonefish ソトイワシ科の魚) のいるビーチ」という意味で、歴史的、考古学的、生物学的資産にあふれています。通称ではなく正式名称を使用してください。

セブン・セイクレッド・プールズ

(Seven Sacred Pools 7つの神聖な池)

正しくはオヘオ (‘Ohe‘o)。「池」という意味で、マウイ島東のキパフル (Kīpahulu) にある溪流の名称です。流れは滝となり、7つの池に流れ込むことからこの通称がつけられました。一帯はワヒ・パナ (wahi pana 神聖かつ重要、または文化的に配慮したい場所) とされています。





ラナイ島 (Lāna‘i)

神々の庭 (Garden of the Gods)

ラナイ島にあり、正式名称はケアヒアカヴェロ (Keahiakawelo) です。カヴェロ (Kawelo) という名のカフナが、モロカイ (Moloka‘i) の邪悪なカフナ、ラニカウリア (Lanikauila) の呪詛をはねのけるために起こした炎のモオレロ (mo‘olelo 伝説) が残っています。一帯はワヒ・パナ (wahi pana 神聖かつ重要、または文化的に配慮したい場所) とされています。通称ではなく正式名称を使用してください。

スウィートハート・ロック (Sweetheart Rock)

ラナイ (Lāna‘i) 島南にある80フィートの自然の構成物で、正式名称はプウペヘ (Pu‘upehe)。嫉妬した恋人に閉じ込められてしまったハワイの娘の伝説に由来しています。

難破船の浜 (Shipwreck Beach)

ラナイ島北にあるこの一帯の正式名称はカイオロヒア (Kaiolohia)。「荒れた海」という意味で、6マイルにわたるビーチには19世紀から20世紀の難破船の残骸が12隻以上残っています。



オアフ島 (O‘ahu)

アラモアナとアラワイ

(Ala Moana and Ala Wai)

オアフ島のこの2ヶ所には「地名はすべて1語」の原則が当てはまりません。アルファベット表記の際は2語に分けて表記してください。

バーバース・ポイント (Barber’s Point)

オアフ島にあるこの一帯の正式名称はカラエロア (Kalaeloa)。第二次世界大戦中の軍事基地で1998年にハワイ州に返還されました。カラエロアの意味は「長いポイント」。バーバース・ポイントという通称は使用しないでください。

チャイナマンズ・ハット (Chinaman’s Hat)

オアフ島カネオヘ湾 (Kāne‘ohe) のクアロア (Kualoa) 沖にあるこの小島の正式名称はモコリイ (Mokoli‘i)。伝説によれば、超自然的なモオ (mo‘o トカゲ) が女神ヒイাকা (Hi‘iaka) によって滅ぼされ、その尻尾がこの島になったと言われていました。プランテーション時代にアジアからの移民がかぶっていたとがった麦わら帽子に似ていることから生まれた通称を使うのは控えてください。(2007年上院決議60条)

ダイヤモンド・ヘッド (Diamond Head)

オアフ島にあるダイヤモンド・ヘッドの正式名称はレアヒ (Lē‘ahi)。その地形が魚アヒ (‘ahi マグロ) の頭に似ていると女神ヒイアカ (Hi‘iaka) が言ったという物語に由来しています。19世紀に英国の船乗りたちが、クレーターで見つけた石をダイヤモンドと勘違いしたことからこの通称がつきましたが、実際には方解石の水晶でした。

ディリングガム飛行場 (Dillingham Airfield)

以前は「ディリングガム飛行場」として知られていた飛行場は今、
一帯の伝統的な地名で「運ばれる水」を意味するカヴァイハ
パイ (Kawaihāpai) と呼ばれています。カヴァイハパイ飛
行場は米国陸軍の所有地で、ハワイ州交通局空港部門が管理
しています。

ラニカイ (Lanikai)

オアフ島カイルアにあるこの住宅地とビーチ一帯は1920年代
の開発業者ヘンリー・カイザーによってラニカイと名づけられ
ました。「天国の海」という意味のつもりが間違えて翻訳さ
れてしまったという説もありますし、カイザー氏が自分の名
前の一部に天国を意味する「ラニ (lani)」をつけ加えたとい
う説もあります。本来の名前はカオハオ (Ka‘ōhao) で、「つ
ながれる」という意味です。ラニカイという地名は使わない
ようにしてください。

ラニアケア (Laniākea)

オアフ島ノースショアのカヴァイオラ (Kawaiola) にあるラ
ニアケアは、サーストン一族の別荘の名前でした。ラニアケア
が誤って使われてきましたが、一帯の正式名は「スナガニの糞」
を意味するクカエオヒキ (Kūkae‘ōhiki) です。ラニアケアと
いう地名は使用しないでください。

ノースショア (North Shore)

オアフ島のコオラウ・ロア (Ko‘olau Loa) からワイアルア
(Waialua) にかけてのアフプアア (ahupua‘a 伝統的な土
地区分) の一部です。他の島にもノースショアはありますが、
オアフ島のこの沿岸は大々的に紹介されたため、一般的に「ノ
ースショア」といえばオアフ島のノースショアを指します。オ
アフ島のノースショアを意味するときはShoreのSも大文字に
しますが、他の島のノースショアを指すときはshoreのsは小
文字を使用してください。

ポカイベイ (Pōka ‘ī Bay)

オアフ島リーワードコーストのポカイ・ベイは、2つめのカハ
コー (kahakō ハワイ語の表記で、その母音を強めて長く伸
ばす) なしで誤表記されることが多い地名です。

サンディビーチ (Sandy Beach)

オアフ島東にあるこのビーチの正式名称はアヴァヴァマル
(Awāwamalu)。「緑濃い谷」という意味です。ボディサーフィ
ンで有名ですが引き波がとても強いので、訪問者は水際の注意標
識をよく確認しビーチから見物を楽しむよう紹介してください。

サンセットビーチ (Sunset Beach)

この一帯とビーチの正式名称はパウマル (Paumalū)。「ひそか
に奪われた」という意味です。パウマルにはプロ向けのビッグ・
ウェイブ・サーフ・スポットが点在し、冬期は大波が絶え間なく
押し寄せることで有名です。訪問者は遠くから見学してください。

ワイコロア (Waikōloa)

オアフ島セントラル地区にあるワイコロアは、その母音を強調
し、音を長く伸ばす長音記号カハコーなしで誤表記されがちで
す。「冷たい北西の風」という意味のこの地名を、表記にカハコ
ーを使わないハワイ島のワイコロア (Waikoloa) と混同しな
いようにしてください。

カウアイ島 (Kaua‘i)

妖精の魚の池 (Menehune Fish Pond)

カウアイ島フレイア (Hulē‘ia)。川沿いにあり、正式名称はアレココ (‘Alekoko 発音と表記には数種あり)。「妖精の魚の池」という通称は、手先が器用で勤勉なハワイの小人メネフネ (menehune) がつくった池というアレココの伝説から来ています。米国国家歴史登録財にも指定され、ハワイでも有数の内陸の養殖池とみなされています。



ナパリ (Nāpali)

2語に分けて誤表記されることの多いナパリはカウアイ島北西の海岸にあります。

北西ハワイ諸島海洋国立モニュメント (Northwest Hawaiian Islands Marine National Monument)

正式名はパパハナウモクアケア (Papahānaumokuākea) です。「ハワイ諸島」の章を参照ください。

ロシアのエリザベス砦州立歴史公園 (Russian Fort Elizabeth State Historical Park)

ロシアのエリザベス砦州立歴史公園の石造りの要塞は、ハワイ諸島におけるロシアのつかの間の冒険 (1815年～1817年) の忘れ形見です。巨大な石を積み重ねた砦はロシアのデザインとハワイの建築技術を組み合わせたもの。正式な地名はパウラウラ (Pā‘ula‘ula) です。

難破船のビーチ (Shipwreck Beach)

カウアイ島南ポイプ (Po‘ipū) にあるこのビーチはサーフィンで有名です。正式名称はケオネロア (Keonelo) で「長い砂」という意味です。

ワイアレアレ (Wai‘ale‘ale)

カウアイ島中央にあるワイアレアレは死火山の名前であると同時に、二番目に高い峰の名前でもあります。「地球で最も雨が多い地」と紹介するのは控えましょう。ワイアレアレはたしかに雨が多いところですが、地球で最も雨がが多いわけではありません。こうした表現はカウアイ島の天候全般に対する誤解を招いてしまいます。

ワイメアキャニオン (Waimea Canyon)

カウアイ島のワイメアキャニオンが正式名称です。正しい地名を使用し、「太平洋のグランド・キャニオン」という紹介はやめましょう。マーク・トウェインがつけた通称というのは事実ではありません。



ここに記載された連絡先と参考資料は、本ツールキットをご利用になる方々の利便を考慮してつくられた2022年11月現在のものです。こうした情報の常ですが、内容が変わる場合もあります。

渡航に必要なもの

国内外からハワイに到着する訪問者は、ハワイ州ならびに米国が必要とする条件を満たさなければいけません。詳しい条件については、ハワイに到着する前にご利用の航空会社に問い合わせください。

イベント・カレンダー

HTA では年間を通して一般の方々や業界関係者向けに様々なイベントを催しています。イベントはハワイというブランドの独自性を示すと同時に、ハワイの観光産業の発展のために役立つトピックを取り上げています。

最新情報はこちらから。

英語：
hawaii tourism authority.org/news/e-bulletins

日本語：
allhawaii.jp/htjnews/

最新のイベント情報はこちらから。

英語：
gohawaii.com/trip-planning/events-festivals

日本語：
allhawaii.jp/event/

ハワイの歴史と文化を探る

ハワイ島

フリヘエ宮殿 (Hulihe'e Palace)

フリヘエ宮殿は歴史あるカイルア・コナの街に位置し、ハワイ王国時代に溶岩石の上にハワイ王国の高官ジョン・アダムス・クアキニの邸宅として建てられました。のちにハワイ島でのハワイ王族の別荘として、他のどの宮殿よりも多くの王族が暮らした宮殿です。現在は博物館となり、〈ドーターズ・オブ・ハワイ〉によって保存される史跡として、米国国家歴史登録財にも指定されています。

75-5718 Ali'i Drive
Kailua-Kona, HI 96740
(808) 329-1877
daughtersofhawaii.org/hulihee-palace



ハワイ・イミロア天文学センター

(‘Imiloa Astronomy Center of Hawai‘i)

イミロアはハワイ大学ヒロ校による地域社会と訪問者向けの多目的施設です。ハワイ語やハワイ文化を基本に生活の質の向上を目指したプログラムやサービスを提供しており、ハワイの人々や天文学関係者が集い、マウナケアの自然史や文化に関する情報を分け合う場を提供しています。初期のポリネシア人の航海史や夜空の知識、ハワイ文化や航海術を、天文学と科学の発展とを同時に関連づけています。

600 ‘Imiloa Place
Hilo, HI 96720
(808) 932-8901
imiloahawaii.org



マウイ島

ベイリー・ハウス ハレ・ホオイケイケ

(Hale Hō‘ike‘ike at the Bailey House)

様々な展示を楽しみながらマウイ島の歴史を紐解きましょう。ベイリー・ハウス博物館にあるハレ・ホオイケイケは記録が残る前の時代の工芸品の幅広いコレクションを誇り、西洋との接触前のハワイの、上質で洗練された文化を展示しています。

2375A Main Street
Wailuku, HI 96793
(808) 244-3326
mauimuseum.org

ラナイ島

ラナイ文化遺産センター

(Lāna‘i Culture & Heritage Center)

ラナイシティにあるラナイ文化遺産センターは2007年に設立されました。人々の意識を高め、自然の歴史を保護し、伝え、思いやる心ことによって、ラナイ島に受け継がれた景観を積極的に細心の注意を払って管理していくことを目的としています。

730 Lāna‘i Avenue, Suite 118
Lāna‘i City, HI 96763
(808) 565-7177
lanaichc.org

オアフ島

ビショップ博物館

(Bernice Pauahi Bishop Museum)

王家カメハメハー族の最後の子孫、バニース・パウアヒ・ビショップ王女の名前を冠した博物館は1889年、様々なハワイの工芸品や王家の宝飾品など大量のコレクションを収蔵するために設立されました。今ではハワイの品々、文書、写真、ハワイ以外のポリネシアの工芸品など、数百万点を所蔵しています。

1525 Bernice Street
Honolulu, HI 96817
Phone: (808) 847-3511
bishopmuseum.org



ハナイアカマラマ — クイーン・エマ・サマー・パレス (Hānaiakamalama - Queen Emma Summer Palace)

ハナイアカマラマ、またの名をエマ女王の夏の宮殿は、街から離れたエマ女王と夫カメハメハ4世、そしてアルバート・エドワード王子の山の別荘で、1857年から1885年、夏の避暑にも使われました。ハナイアカマラマは博物館および史跡として〈ドーターズ・オブ・ハワイ〉によって保存され、米国国家歴史登録財にも指定されています。

2913 Pali Highway
Honolulu, HI 96817
(808) 595-3167
daughtersofhawaii.org/queen-emma-summer-palace

イオラニ宮殿 (‘Iolani Palace)

イオラニ宮殿はデビッド・カラカウア国王 (David Kalākaua) と後継者となった妹リリウオカラニ女王 (Lili‘uokalani) が実際に暮らした宮殿で、ハワイ王国の統治時代を象徴しています。華々しい舞踏会やフラのパフォーマンスの美しい記憶が詰まった建物はハワイが誇る伝統遺産のシンボルであり、米国国家歴史登録財にも指定された米国内唯一の宮殿です。

364 South King Street
Honolulu, HI 96813
(808) 522-0822
iolanipalace.org

カウアイ島

カウアイ博物館 (Kaua‘i Museum)



リフエ (Līhu‘e) の町の中心に位置するカウアイ博物館は、一世紀前に図書館として生まれた建物です。今日、カウアイ博物館は文化的展示

や工芸品、絵画、音楽、古文書などを所蔵し、西洋文化との接触前、接触後のカウアイ島の豊かな歴史を伝えています。

4428 Rice Street
Līhu‘e, HI 96766
(808) 245-6931
kauaimuseum.org

近代ハワイ史、宣教師の歴史、 そして米国史を探る

ハワイ島

ライマン博物館とミッション・ハウス (Lyman Museum & Mission House)

1839年、ニュー・イングランドからやってきたデビッドとサラ・ライマン夫妻のために建てられた建物は、ライマン・ミッション・ハウスとしてはじまりました。1931年、夫妻の子孫がライマン博物館とミッション・ハウスを設立。今日、修復されたミッション・ハウスはハワイ州および米国国家歴史登録財に指定され、ガイドによるツアー見学もあります。アメリカ博物館同盟、スミソニアン・アフィリエイトとしても認可されています。

276 Haili Street
Hilo, HI 96720
(808) 935-5021
lymanmuseum.org

マウイ島

ポールドウィン・ホーム博物館 (Baldwin Home Museum)

マウイ島に現存する最も古い邸宅、ポールドウィン・ホームは1834年から1835年にかけて、エフレイム・スポウルディング牧師が建てたものです。1967年、ポールドウィン家の相続人によってラハイナ復興財団に譲渡され、公文書や考古学上の丹念な調査を経て19世紀半ばのデザインのままに復元されました。ポールドウィン・ホーム博物館は、アメリカ議会図書館公記録保管所内の歴史的アメリカ建造物調査報告書にも記録されています。マウイ社会への多大な貢献をしたドクター・ポールドウィンを記念し、ポールドウィン・ホーム博物館は永久に社会の共有財産であり続けます。

120 Dickenson Street
Lahaina, HI 96761
(808) 661-3262

lahainarestoration.org/baldwin-home-museum



オアフ島

ハワイ歴史協会 (Hawaiian Historical Society)

ハワイ歴史協会は歴史的資料を保存し、講演を行い、ハワイの歴史に関する学術的な研究結果を発表する目的のために1892年、一部の有力な市民によって設立されました。リリウオカラニ (Lili'uokalani) 女王も初期の後援者でした。

「ハワイアン・ジャーナル・オブ・ヒストリー」はハワイ歴史協会が毎年発行する、ハワイや太平洋の歴史にまつわる研究調査や独自の記事を掲載する学術的な専門誌です。ハワイアン・ミッション・ハウス史跡の図書館の中にあり、写真や新聞、雑誌、専門誌、書籍、パンフレット、原稿など優れたコレクションを所蔵し、研究者や一般にも公開しています。

560 Kawaiaha'o Street
Honolulu, HI 96813
(808) 537-6271
hawaiianhistory.org

ハワイアン・ミッション・ハウス史跡 (Hawaiian Mission Houses Historic Site)

ハワイアン・ミッション・ハウス史跡と古文書保管所は、アメリカ博物館同盟に国家歴史建造物として認定されています。歴史ある州都ホノルルのダウンタウンにある1エーカーの敷地には、1821年に建てられたハワイで最も古い西洋式の邸宅ミッション・ハウス、1831年に建てられたシャンパーラン・ハウス、1841年の寝室別館、墓地、コレクション保管庫、ギフトショップ、そして多目的スペースがあり、英語とハワイ語の古文書を所蔵する図書館には8万以上のデジタル資料が保存され、世界最大のハワイ語書籍のコレクションのひとつとされています。

553 South King Street
Honolulu, HI 96813
(808) 447-3910
missionhouses.org

ホノウリウリ (Honouliuli)

まだ一般には公開されていませんが、ホノウリウリ国家史跡は第二次世界大戦中のハワイであった投獄や戒厳令、また戦争捕虜の体験の歴史が展示される予定です。

(808) 295-7673
honouliuli@nps.gov

太平洋歴史公園 (Pacific Historic Parks)

太平洋歴史公園は太平洋の重要な史跡を支援する団体です。教育や解説プログラムの作成のほか、太平洋の史跡にかかわる人やできごとを記念する施設の、修復や保存のための調査実施を使命とし、戦艦アリゾナ記念館、ボウフィン潜水艦博物館公園、戦艦ミズーリ記念館、太平洋潜水艦隊博物館、そして真珠湾航空博物館で毎日ツアーを催行しています。

1 Arizona Place
Honolulu, HI 96818
(808) 485-1941
pacifichistoricparks.org

真珠湾国立記念館 (Pearl Harbor National Memorial)

米国国立公園局が実施する真珠湾国立記念ツアーは、開戦から和陸にいたるまで第二次世界大戦史の世界に参加者を誘います。真珠湾ビジター・センターは、国立公園局が実施するアリゾナ記念プログラムと真珠湾史跡ツアーの出発点です。真珠湾国立記念館では、米国史上最も重要な事件である1941年12月7日の真珠湾攻撃、そしてそれに次いで米国が第二次世界対戦に突入していく過程を紹介しています。戦艦アリゾナ記念館、戦艦オクラホマ記念館、戦艦ユタ記念館もぜひ訪れてください。要予約。

1 Arizona Memorial Place
Honolulu, HI 96818
(808) 422-3399

国立公園局 戦艦アリゾナ記念館の予約はこちらから。
nps.gov/perl/uss-arizona-memorial-programs.htm

国立公園局 フォード・アイランド・
バス・ツアーの予約はこちらから。
nps.gov/perl/ford-island-bus-tour.htm



ハワイ米国防軍博物館 (U.S. Army Museum of Hawai'i)

1906年、タフト委員会は軍事的に重要な真珠湾とホノルルを守るために沿岸に砲列の設置を提案しました。ワイキキに1911年に建設された二つの砲台は、海からの攻撃からオアフ島を守るため島全体を取り囲むようにつくられた「鉄の輪」の要でした。コンクリートの頑丈な壁は、2,000ポンドの砲弾にも耐えるもので、真珠湾とホノルルを敵の戦艦から守るのが砲台の最も重要な使命でした。現在は、米国でも最高の武勲の二つ〈名誉勲章〉と〈殊勲十字章〉またはその同格である〈海軍十字章〉〈空軍十字章〉を授与された英雄が並ぶ〈英雄のギャラリー〉を抱く博物館です。

2131 Kālia Road
Honolulu, HI 96815
(808) 438-2819
hiarmymuseumsoc.org

ワシントン・プレイス (Washington Place)

ハワイ最後の君主リリウオカラニ女王 (Lili'uokalani) が居住した由緒あるこの建物は、ハワイ知事とその家族が暮らす公邸でもあります。ワシントン・プレイスは歴史的建物と敷地、所蔵物、そして文化的遺産の保存に努めています。リリウオカラニ女王のレガシーと、そこを我が家と呼んだ人々の記憶を伝

えるワシントン・プレイスは、今も優雅な集いの場所として親しまれています。

320 South Beretania Street
Honolulu, HI 96813
(808) 586-0248
washingtonplace.hawaii.gov

国立公園、国立史跡、トレイル

より充実した体験にするために、訪れる前に国立公園のアプリをダウンロードしましょう。

Apple App Store: apple.com/app-store/
Google Play Store: play.google.com/store/apps/details?id=gov.nps.mobileapp

ハワイ島

アラ・カハカイ国立歴史トレイル (Ala Kahakai National Historic Trail)

ネイティブハワイアン传统文化と自然資源を守り、保存し、伝えるために、2000年に設立されたアラ・カハカイ国立歴史トレイルは、文化的、歴史的に重要なトレイルをつないで島を包囲する全長175マイルにおよぶトレイルです。この「海岸沿いのトレイル」はワヒ・パナ (wahi pana 神聖で重要かつ文化的に配慮が必要な場所) を横切り、200以上のアフプアア (ahupua'a 伝統的土地区分) にわたって続きます。

ハワイ火山国立公園、プウホヌア・オ・ホナウナウ国立歴史公園 (Pu'uhonua o Hōnaunau)、カロコ-ホノコハウ (Kaloko-Honokōhau) 国立歴史公園、プウコホラ (Pu'ukoholā) 史跡の一部を通じてアクセスできます。

nps.gov/alka/index.htm

アラ・カハカイ・トレイルの一部はハワイ州の管轄区域にあり誰でも利用できます。このセクションのトレイルはプウコホラア・ヘイアウ (Pu'ukoholā Heiau) 国立史跡とアナエホオマル ('Anaeho'omalu) 湾の間にあります。

(808) 217-0307
hawaii.trails.hawaii.gov/trails/#/trail/ala-kahakai-trail/5

ハワイ火山国立公園



ハワイ火山国立公園は地質学的にも生物学的にも世界で最も独特で、人々に愛されている文化的景観を保護しています。海拔0フィートから13,681フィートまで、

キラウエア (Kīlauea) とモアナロア (Maunaloa) という世界で最も活動の盛んな二つの火山があり、国際生物圏保護区とユネスコの世界遺産に指定されています。

Highway 11
Hilo, HI 96718
(808) 985-6011
nps.gov/havo/index.htm

カロコ-ホノコハウ国立歴史公園 (Kaloko-Honokōhau National Historical Park)

乾燥した灼熱の環境で生き延びるため、ネイティブハワイアンは伝統的な漁法と技術を活用しました。塩水と淡水の流れを管理するために築かれた養殖池は、公園のあちこちに見られます。一見、居住に適さないように見えますが、かつてここにあったネイティブハワイアンの居留地は繁栄していました。伝統と敬意の精神は今もこの一帯に残されています。

Highway 19
South of the 97 mile marker
Kailua-Kona, HI 96740
(808) 329-6881 ext 1329
nps.gov/kaho/index.htm

プウホヌア・オ・ホナウナウ国立歴史公園

(Pu'uhonua O Hōnaunau
National Historical Park)

伝統的ハワイ文化にはカナワイ (kānāwai) と呼ばれるルールがあり、社会の規範がたもたれていました。特定の人や場所、ものは神聖なものでカプ (kapu) と呼ばれ、禁止または規制されていました。カプを破れば社会の安定を乱すことになり、死によって罰せられることが少なくありませんでした。

カプを犯した逃亡者や戦いに破れた戦士、また戦闘時の民間人は、プウホヌアの壁の内側に入れば罪から逃れ、許しを乞うことができました。プウホヌアの境界線の中に入った人を肉体的に傷つけることは許されませんでした。

Highway 160
Hōnaunau, HI 96726
(808) 328-2326
nps.gov/puho/index.htm

ハワイ島プウコホラ・ヘイアウ国立史跡

(Pu'ukoholā Heiau
National Historic Site, Hawai'i Island)

18世紀末期、ハワイ島では内乱が続いていました。ク (Kū) の神を讃え、カメハメハ大王の戦士たちは20マイル以上離れたポロルの谷 (Pololū Valley) から長大な数珠つなぎとなり、水に打たれて丸くなった岩をひとつひとつ手渡して運んでこのヘイアウ (heiau) を建てたのです。ハワイ全島統一のため、カメハメハ大王は従兄弟であるケオウア・クアフウラ (Keōua Kū'ahu'ula) とここプウコホラで戦いました。1790年に幕を閉じた内乱は、ハワイの伝統的な武器を使った最後の戦いでした。ハワイの人々にとってプウコホラ・ヘイアウ国立史跡は今日も統一と永続的な平和の象徴であり続けています。

62-3601 Kawaihae Road
Kawaihae, HI 96743
(808) 882-7218
nps.gov/puhe/index.htm

マウイ島

ハレアカラ国立公園 (Haleakalā National Park)



古代、近代を問わずハワイ文化にかかわる多くの物語がひしめく特別な場所です。世界の他のどこにもない絶滅危惧種の保護活動も行われています。この特別な地を訪れ、火

山を取り囲む荒涼とした風景と人影のない亜熱帯林を歩いてみましょう。忘れられないハイキングはきっと魂をリフレッシュさせてくれます。朝日を見る場合は事前の予約が必要です。

Highway 378
Makawao, HI 96768
(808) 572-4400
nps.gov/hale/index.htm

モロカイ島

カラウパパ、モロカイ島 (Kalaupapa, Moloka'i)

ハワイにハンセン病がもたらされ、カメハメハ5世はすべての患者をモロカイ島北岸カラウパパ半島に追放しました。1866年からおもに8,000人以上のハワイの人々が、カラウパパで息を引き取りました。かつては牢獄同様だったカラウパパですが、完治はしても孤独とともに生きる道を選んだ数名の人々が、今も暮らしています。現在は一時的に閉所中で、訪問者は受け入れていません。カラウパパ・トレイルも立入禁止です。

nps.gov/kala/index.htm

ハワイ語関連資料

アハ・プナナ・レオ ('Aha Pūnana Leo)

1983年からアハ・プナナ・レオはケイキ (keiki 子どもたち) に豊かで刺激に満ちた学習の場を提供しています。同校独自のハカラム (Hakalama) 読み書きメソッドにより、ケイキたちは3、4ヶ月のうちにオレロ・ハワイ ('ōlelo Hawai'i ハワイ語) を話しはじめ、上級の読み書きを身につけて卒業します。フイ・キパエパエ (Hui Kīpaepae) は、ハワイ語運動の歴史、ハワイ語そのもの、そして参加型の学習の機会などプナナ・レオの様々な側面を学べるコースです。各家庭の知識向上の援助をすること、家庭とプナナ・レオのあいだで継続的に学習できるようにお互いをサポートすることを目的としています。

ahapunanaleo.org/resources-1

アワイアウル — キパパ・データベース (Awaiaulu - Kīpapa Database)

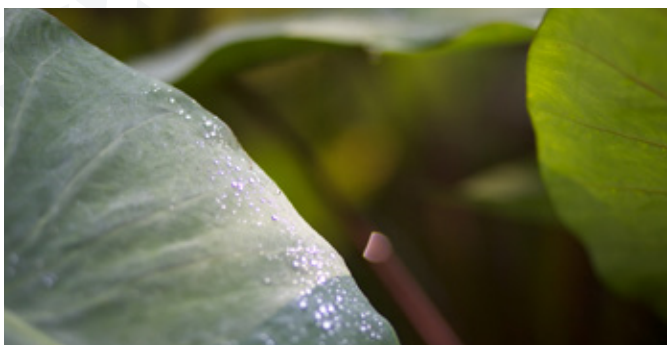
英語とハワイ語の二ヶ国語によるハワイの歴史資料。

awaiaulu.org/kipapa

デュオリンゴ (duolingo)

ハワイ語も含めた語学学習アプリとウェブサイト。

duolingo.com



ハワイ語発音ガイド

(Hawaiian Pronunciation Guide)

ハワイ語復興運動に参加しましょう。まずは基本となるハワイ語の単語と発音の秘訣から。インタラクティブなハワイ語発音ガイドの音声クリップを利用して、よく使われるハワイ語の単語やフレーズを学びましょう。

gohawaii.com/hawaiian-culture/hawaiian-language-guide

カニアイナ (Kani'āina)

「大地の声」を意味するカニアイナはネイティブハワイアンの話し言葉に焦点をあて、ハワイ語とハワイ文化の学習を促し、向上させるための教育的資料のデジタル保管庫です。

ulukau.org/kaniaina

マウリオラ基金 — カナエナエ・トゥギャザー

(Mauiola Endowment - Kānaenae Together)

カナエナエ・トゥギャザーはマウリオラ基金エコシステムの一部で、ストレス解消のための日々の儀式を行う機会を提供します。集まった基金は、ハワイ伝来の方法で心と身体と精神の健康を支えるために使われます。

mauiolaendowment.com/kanaenae-together

ナ・プケ・ウェヘウェヘ・オレロ・ハワイ

(Nā Puke Wehewehe 'Ōlelo Hawai'i)

ナ・プケ・ウェヘウェヘ・オレロ・ハワイは定評のあるものから新しいものまで数種のハワイ語辞書と地名に関する書籍2冊を検索しやすいオンライン資料として提供しています。

hilo.hawaii.edu/wehe/

ネイティブハワイアンホスピタリティ協会 (Native Hawaiian Hospitality Association)

ネイティブハワイアン・ホスピタリティ協会はハワイ語の初歩、アルファベットの発音、練習用ビデオ、キーボードのダウンロード方法の説明などハワイ語に関する資料を提供しています。

nahha.com/olelo-hawaii

ウルカウ (Ulukau)

ウルカウはハワイに関する各種の話題と、書籍やカリキュラム、辞書、文書、系図、ハワイ語、土地、音楽、新聞、写真などの資料ならびに独自のコレクションを提供しています。

ulukau.org

伝統的土地区分と アフプアア (Ahupua'a)

アハ・モク・ライブラリー ('Aha Moku Library)

アハ・モク・システムは持続可能性を重視した伝統的な自然資源管理であるアフプアアを基本とし、地図や月齢カレンダー、養殖池観察の記録、アフプアア管理システムに関する資料や論文、記事などを提供しています。

ahamoku.org/index.php/library

アフプアア境界線マーカー・プロジェクト (Ahupua'a Boundary Marker Project)

オアフ島議会が先鋒に立ち、2011年にコオラウポコ・ハワイアン市民クラブ (Ko'olaupoko Hawaiian Civic Club) が立ち上げたオアフ島のアフプアア境界線マーカー・プロジェクトは、地域社会の人々と土地の結びつきを深め、大地をよりいっそう思いやる心ことを目指しています。

koolaupoko-hcc.org/ahupuaa-boundary-marker-project

ハワイ全州GISプログラム (Hawai'i Statewide GIS Program)

このサイトはアフプアアによる歴史的土地区分の層を示しています。もとはハワイ先住民問題事務局 (Office of Hawaiian Affairs) によってつくられ、ハワイ州土地天然資源局によって情報が更新されます。19世紀の測量地図に呼応する土地区分もこのサイトで見られます。綿密に調査された地名表記が使われています。

geoportal.hawaii.gov/datasets/HiStateGIS::gnis-geographic-names/

マウイ・ヌイ・アフプアア・プロジェクト (Maui Nui Ahupua'a Project)

マウイ・ヌイ・アフプアア・プロジェクトはマウイ・ヌイ (マウイ島、モロカイ島、ラナイ島、カホオラウエ島) 内の標識設置共同プログラムです。ハワイの伝統的な土地区分システム、境界線やそこに伝わる物語、その土地の特徴に対する住民と訪問者の理解を深め、持続可能性というコンセプトを支援し、奨励していくことを目的としています。

mauinuiahupuaaproject.com





ハワイの音楽

ハワイ・アカデミー・オブ・
レコーディング・アーツ/ナ・ホク・ハノハノ賞
(The Hawai'i Academy of
Recording Arts / Nā Hōkū Hanohano Awards)

ハワイ・アカデミー・オブ・レコーディング・アーツ (HARA) とナ・ホク・ハノハノ賞のはじまりは1978年。HARAはハワイの音楽レコーディング産業の発展と質の向上を促すプログラムを指揮しています。ハワイのレコーディング業界とハワイの音楽の保護、保存、促進、育成、発展がHARAの使命です。

(808) 593-9424
harahawaii.com

ロイヤル・ハワイアン・バンド (Royal Hawaiian Band)

かつて「国王の楽隊」と呼ばれたロイヤル・ハワイアン・バンドは、1836年、カメハメハ3世によって設立された米国でもっとも歴史のある、地方自治体によるフルタイムの楽団です。ハワイ王国時代は王室の人々とともに他の島や外国にも旅をしました。

(808) 768-4242
rhb-music.com

観光産業を 牽引する機関

ハワイ・ツーリズム・オーソリティ (Hawai'i Tourism Authority)

1801 Kalākaua Avenue
Honolulu, HI 96815
(808) 973-2255
info@gohta.net
hawaiitourismauthority.org/who-we-are/contact-us
hawaiitourismauthority.org/what-we-do/brand-marketing

ハワイ・コンベンション・センター (Hawai'i Convention Center)

1801 Kalākaua Avenue
Honolulu, HI 96815
(808) 943-3500
info@hccasm.com
meethawaii.com/convention-center/

ハワイアン・カルチャー関連事業団体 (Hawaiian Culture Industry Liaison)

Native Hawaiian Hospitality Association
2201 Kalākaua Avenue, STE 500
Honolulu, HI 96815
(808) 628-6374
info@nahha.com

各島の観光局

ハワイ島観光局

(Island of Hawai‘i Visitors Bureau)

(808) 885-1655

islandofhawaii@hvcb.org

gohawaii.com/island-of-hawaii

マウイ観光局

(Maui Visitors & Convention Bureau)

(808) 244-3530

maui@hvcb.org

gohawaii.com/maui

オアフ観光局

(O‘ahu Visitors Bureau)

(808) 524-0722

oahu@hvcb.org

gohawaii.com/oahu

カウアイ観光局

(Kaua‘i Visitors Bureau)

(808) 245-3971

kauai@hvcb.org

gohawaii.com/kauai

ハワイ州観光局 日本支局 東京オフィス

(Hawai‘i Tourism Japan, Tokyo Office)

info@htjapan.jp

allhawaii.jp

